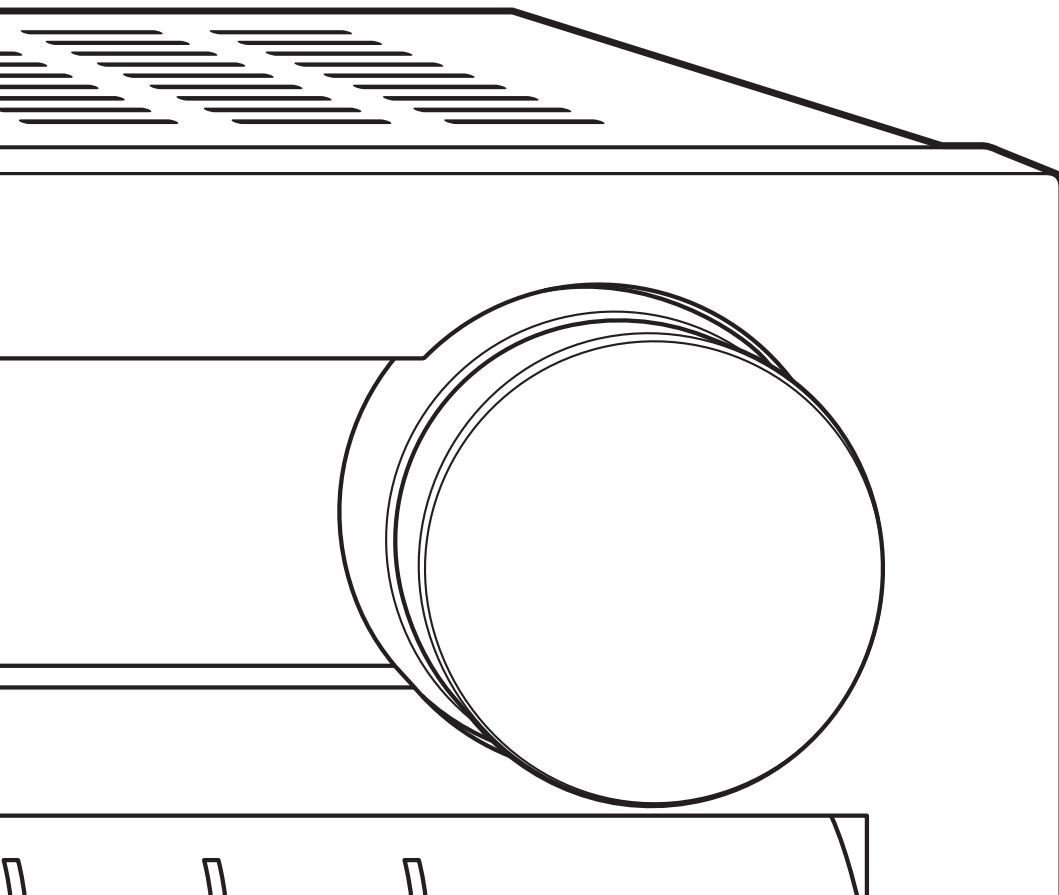
TX-NR1030

AVレシーバー

基本操作マニュアル

保証書付

WEB詳細ガイドはこちらから

http://www.onkyo.com/manual/txnr1030/adv/ja.html

はじめに

マニュアルの構成

本書には、本機をテレビやスピーカーシステム、再生機器と接続して再生をお楽しみいただくまでのスタートアップに必要な内容や、使用頻度が高い機能の操作について掲載しています。また、エコロジーの観点から、応用的な設定や機能、詳細な情報についてはWEB詳細ガイドとして電子マニュアルをウェブ上で公開しています。

WEB詳細ガイド

WEB詳細ガイドは、つねに最新の情報で更新され、PCはもちろんスマートフォンでも読みやすいレイアウトでご覧いただけます。WEB詳細ガイドの掲載内容概要は以下のとおりです。

- AM/FM放送受信の詳細
- USBストレージの音楽を再生する
- インターネットラジオを聴く
- DLNAで音楽を再生する
- 共有フォルダの曲を再生する
- 音楽ファイルをリモコンで操作する
- リスニングモードの詳細
- 応用的な設定
- リモコンで他の製品を操作する
- 応用的な接続
- RI端子付きオンキヨー製品との接続・操作
- 外部機器とのコントロール機能
- ファームウェアアップデート
- 困ったときは
- 参考情報

WEB詳細ガイドはこちらから
http://www.onkyo.com/manual/txnr1030/adv/ja.html

本機の機能と主な特長

- 9チャンネルアンプを搭載
- 頭上を含めて360度の音の定位、移動感を実現するDolby Atmosフォーマットの再生に対応
- 2チャンネルや5.1チャンネル、7.1チャンネルのソースをご使用のスピーカー構成に合わせて再生するDolby Surroundリスニングモード
- THX Select2 Plus規格に準拠
- 高性能ビデオフォーマットコンバーター「Qdeo™」を搭載
- 全HDMI端子が4K解像度の60 Hz表示に対応
- 待機状態のときも再生機器の信号をテレビに伝送できるHDMIスルー機能
- 高品位なコンテンツを楽しむためのより強固な著作権保護技術 HDCP2.2に対応(HDMI IN3/OUT MAINのみ対応)
- ARC(Audio Return Channel)に対応
- USBストレージ内の音楽再生に対応
- インターネットラジオやDLNAなどさまざまなネットワーク機能に対応
- Wi-Fi接続、Bluetooth機能、MHLモバイル機器に対応
- バイアンプ接続が可能
- 音声と映像のズレを補正する、A/Vシンク機能
- メインルームで再生しながら別室で異なる音声も楽しめるマルチゾーン機能(ゾーン2では映像も再生可能)
- 極めて高い演算能力を持つ、32 bit DSP(Digital Signal Processor)搭載
- 圧縮された音楽ファイルを、より良い音で楽しむMusic(ミュージック) Optimizer(オプティマイザー)™機能搭載
- Phase(フェーズ) Matching(マッチング) Bass(バス)システム搭載
- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定が可能(AccuEQ(アキュイーキュー) Room(ルーム) Calibration(キャリブレーション))
- ネットワーク、USBストレージ経由でMP3、FLAC、WAV、Ogg Vorbis、AAC、Apple Lossless、DSDフォーマットの音楽ファイルを再生可能(再生できるフォーマットは、ご使用の環境によって異なります)
- ISFビデオ・キャリブレーション機能搭載

付属品

FM室内アンテナ…(1)

AM室内アンテナ…(1)

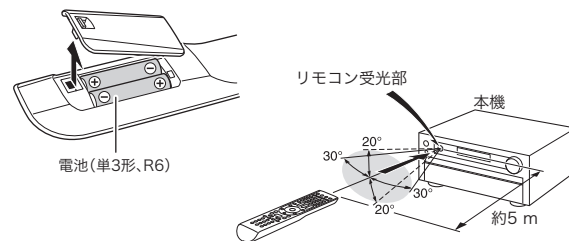
スピーカーコード用カラーラベル…(1)

リモコン(RC-884M)…(1)
乾電池(単3形、R6)…(2)

電源コード…(1)

測定用マイク…(1)

＊(　)内の数字は数量を表しています。包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品の色を表す識別記号です。

リモコンの使い方

＊ 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために、電池を取り出しておいてください。
＊ 消耗した電池を入れたままにしておきますと、腐食によりリモコンをいためることがあります。

Step 1: 接続する

HDMI (ASSIGNABLE)
IN
7　6　5 (PC)　4 (GAME)　3 HDCP 2.2 (STB/DVR)　2 (CBL/SAT)　1 (BD/DVD)
OUT ZONE 2　OUT SUB　OUT MAIN HDCP 2.2 ARC

PC
HDMI OUT
HDMIケーブル

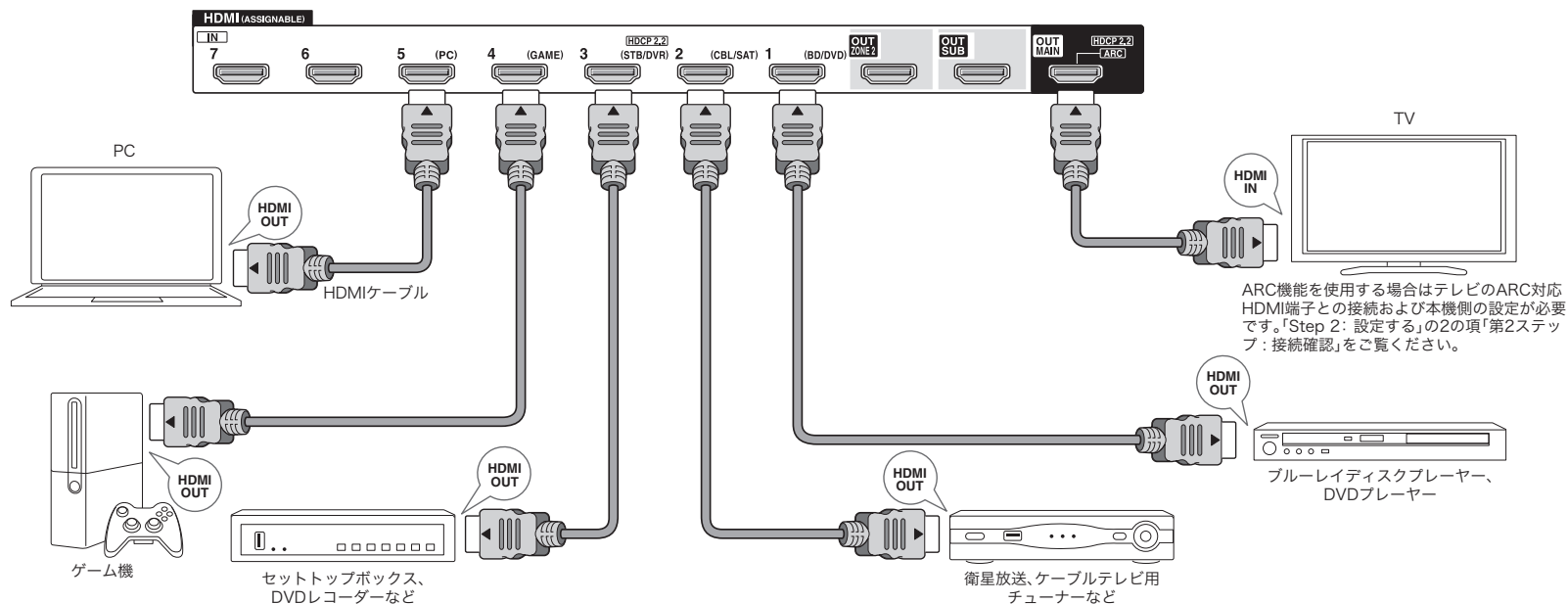
TV
HDMI IN

ARC機能を使用する場合はテレビのARC対応HDMI端子との接続および本機側の設定が必要です。「Step 2：設定する」の2の項「第2ステップ：接続確認」をご覧ください。

HDMI OUT
ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤー

HDMI OUT
ゲーム機

HDMI OUT
セットトップボックス、DVDレコーダーなど

HDMI OUT
衛星放送、ケーブルテレビ用チューナーなど

1 テレビや再生機器を接続する

重要：電源コードはすべての接続が終了してから接続してください。

HDMIケーブルでの接続

本機の後面パネルにはHDMI端子が多数装備されており、それぞれの端子は前面パネルと同じ名称の入力切換ボタンが割り当てられています。たとえば、ブルーレイディスクプレーヤーはIN 1の端子に接続して、再生の際には前面パネルのBD/DVDボタンを押して再生音を楽しみます(CEC規格に準拠したプレーヤーとは、再生の際に自動で入力切換が可能です)。なお、ブルーレイディスクプレーヤーをもう1台接続する場合は、IN 1以外の端子に接続することも可能です。入力端子と入力切換ボタンの割り当てを変更することもできます。設定方法はWEB詳細ガイドでご確認ください。

テレビと本機を接続するには、本機のHDMI OUT MAIN端子とテレビのHDMI入力端子をHDMIケーブルで接続します。この接続によって本機の設定画面をテレビに映したり、再生機器の映像/音声信号をテレビへ伝送することができます。テレビがARC(Audio Return Channel)機能に対応していれば、この接続のみでテレビの音声信号を本機のスピーカーで再生することもできます。テレビがARC機能に対応していない場合は、HDMI OUT MAIN端子の接続に加えて、テレビの光デジタル音声出力端子と本機のDIGITAL IN OPTICAL端子を光デジタルケーブルで接続するか、オーディオ用ピンケーブルを使用して、テレビの音声出力端子と本機のTV/CDアナログオーディオ入力端子を接続してください。

● テレビがARC機能に対応していない場合の音声接続

HDMI OUT SUB端子に、もう1系統テレビを接続できます。この場合、本体のMONITOR OUTボタンをくり返し押して「SUB」または「MAIN+SUB」を表示させ、出力方法を選んでください。また、HDMI OUT ZONE2端子を使用してマルチゾーン機能を楽しむことも可能です。詳しくは

「Step3: 再生する」の6の項「マルチゾーン機能を使用する」をご覧ください。

本機の電源が待機状態になっているときでも、再生機器の映像/音声信号をテレビに伝送できるHDMIスルー機能を搭載しています。CEC対応機器との入力切換連動や、ARC対応テレビとの接続、およびHDMIスルー機能を有効にするには設定が必要です。「Step 2: 設定する」の2の項「第2ステップ : 接続確認」をご覧ください。

- HDCP2.2に対応した映像を楽しむには再生機器をIN 3の端子に接続し、テレビは本機のHDMI OUT MAIN端子に接続してください。再生機器とテレビがHDCP2.2に対応している必要があります。
- 4K、1080pの映像を再生する場合は、ハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。
- 前面パネルのAUX INPUT HDMI/MHL端子はMHL対応モバイル機器と接続して、MHL対応モバイル機器の映像と音声を伝送することができます。

HDMI端子のない機器と接続する

HDMI端子を持たないAV機器は、お持ちの機器にある端子に合わせて本機の端子とケーブルを接続してください。本機の端子にはHDMI端子と同様に前面パネルの入力切換ボタンが割り当てられています。各端子に入力切換ボタン名が記載されていますので、それを参考に各機器と接続してください。

■ 音声信号の接続

① **デジタル接続** : 光デジタルケーブル(OPTICAL)または同軸デジタルケーブル(COAXIAL)を使用して再生機器と接続します。

光デジタルケーブル(OPTICAL)

＊ 本機の光デジタル入力端子は、とびらタイプです。とびらを奥へ倒すようにしてケーブルを挿しこんでください。

同軸デジタルケーブル(COAXIAL)

② **アナログ接続** : オーディオ用ピンケーブルを使用して、再生機器と接続します。
CDプレーヤーなど、HDMI出力端子を持たない再生機器の音声をマルチゾーン出力するには、再生機器とこの端子をオーディオ用ピンケーブルで接続することが必要です。マルチゾーン機能の詳細は「Step 3: 再生する」の6の項「マルチゾーン機能を使用する」をご覧ください。

オーディオ用ピンケーブル

③ **レコードプレーヤーの接続** : カートリッジがMM型でフォノイコライザーを内蔵していない場合は、本機の③PHONO端子に接続します。レコードプレーヤーがフォノイコライザーを内蔵している場合は、②TV/CD端子に接続します。

＊ MC型カートリッジの場合は、MCカートリッジ対応のフォノイコライザーを本機とレコードプレーヤーの間に介して、②TV/CD端子に接続します。詳しくは、レコードプレーヤーの取扱説明書をご参照ください。

＊ レコードプレーヤーにアース線がある場合は、GND端子に接続してください。ノイズが大きくなる場合は、アース線を外してください。

■ 映像信号の接続

本機はビデオアップコンバート機能を搭載しています。詳しくは次の項をご覧ください。

④ コンポーネントビデオケーブルを使用して、コンポーネントビデオ入力端子を持つテレビおよびコンポーネントビデオ出力端子を持つ再生機器と接続します。

コンポーネントビデオケーブル

＊ コンポジットビデオケーブルより高画質な映像信号を伝送します。

⑤ コンポジットビデオケーブルを使用して、コンポジットビデオ入力端子を持つテレビおよびコンポジットビデオ出力端子を持つ再生機器と接続します。

コンポジットビデオケーブル

⑥ アナログRGBケーブルを使用して、PCと接続します。

アナログRGBケーブル

＊ PC IN端子に接続したPCの映像信号は、HDMI OUT MAIN/SUB端子に接続したテレビにのみ出力されます。

コンポジットビデオ入力端子、コンポーネントビデオ入力端子、PC IN端子に入力された映像信号はHDMI信号にアップコンバートされてHDMI出力端子から出力されます。なお、デジタル音声入力信号をアナログ出力に変換することや、その逆はできません。

＊ 1つの入力系統に複数の映像信号が入力された場合は、HDMI→コンポーネントビデオ→コンポジットビデオの順で優先出力されます。

2 スピーカーを接続する

スピーカーの設置位置

Dolby Atmosリスニングモードを再生するには、ハイト1スピーカーまたはサラウンドバックスピーカーまたはワイドスピーカーの設置が必要です。

❶ ❷	フロントスピーカー
❸	センタースピーカー
❹ ❺	サラウンドスピーカー
❻	サブウーファー
⑦ ⑧	サラウンドバックスピーカー
⑨ ⑩	ハイト1スピーカー(フロントハイ)
⑪ ⑫	ハイト2スピーカー(リアハイ)
⑬ ⑭	ワイドスピーカー

- 本機のスピーカー接続端子の⑪⑫用と⑬⑭用は兼用になっています。どちらかを選択して接続してください。
- マルチゾーン機能を使用する場合は、「Step 3: 再生する」の6の項「マルチゾーン機能を使用する」をご覧ください。

5.1ch：❶❷❸❹❺❻のスピーカーを接続します。❶❷は前方のステレオ音声を出力します。❸はセリフやボーカルなど画面中央の音声を出力します。❹❺は後方音場を創出します。❻は重低音を再生し、音場の密度感を高めます。本機はサブウーファーを最大4台まで接続できます。

サラウンドバックスピーカー：⑦⑧のスピーカーを設置することで、7.1chでの再生を可能にし、後方音場による包囲感を向上させます。また、後方の音のつながりも向上し、より自然な音場が創出されます。

ハイト1/ハイト2スピーカー：⑨⑩や⑪⑫のスピーカーを設置することで、サラウンドの高さ方向の演出も可能となります。

- Dolby Atmosリスニングモードを再生するには、ハイト1スピーカーまたはサラウンドバックスピーカーまたはワイドスピーカーの設置が必要です。
- ハイト1のスピーカー設置だけでも効果はありますが、さらに十分な効果を得るにはハイト2のスピーカー設置をおすすめします。
- フロントハイやリアハイのハイトスピーカーは前方または後方の壁面の上方に壁掛け設置してください。ハイトスピーカーは、この他にもいくつかのタイプがあります。

ワイドスピーカー：⑬⑭のスピーカーを設置することで、前方音場の横方向の広がりが向上します。また前方音場と後方音場の音のつながりも向上します。

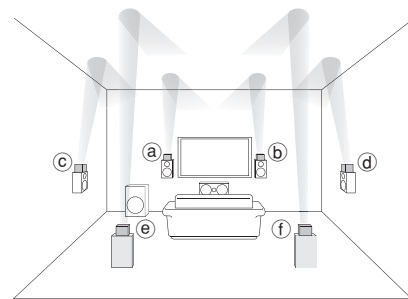
本機のパワーアンプ部は9ch構成のため、⑦⑧のスピーカーと⑪⑫(または⑬⑭)のスピーカーを同時に再生することはできません。両方を接続している場合は、リモコンのQ Setupボタンを押して表示されるQuick Setupメニューで、再生するスピーカーを切り換えることができます(スピーカーレイアウト機能)。

- スピーカーレイアウト機能については、「Step3：再生する」の5の項「Quick Setupメニューを使う」をご覧ください。
- 本機に外部のパワーアンプを接続することで、11ch再生が可能です。接続方法についてはWEB詳細ガイドをご覧ください。

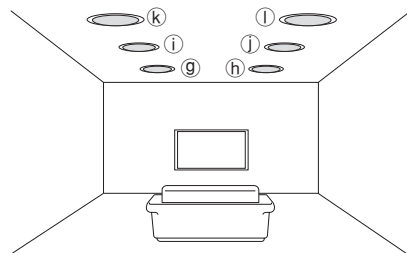
ハイトスピーカーのバリエーション (Dolby Atmos)

ハイトスピーカーには前項のほかにも、次のいくつかのタイプがあります。また、ハイト1スピーカーとハイト2スピーカーには組み合わせパターンがありますので、次項の「ハイト1/ハイト2スピーカー組み合わせパターン」をご参照のうえ選択してください。

- 本機は初期設定(設定ウィザード)で、実際に設置したハイト1/ハイト2スピーカーのタイプを登録して、最適な音場処理を行う仕組みになっています。定められた組み合わせパターン以外の設置をされますと最適な効果が得られませんのでご注意ください。
- DolbyはDolby Atmosの効果を最大に高める設置として、「天井にスピーカーを設置する」のバリエーションを推奨しています。

Dolby Enabled Speakerを使用する

ⓐ ⓑ	Dolby Enabled Speaker(フロント)
ⓒ ⓓ	Dolby Enabled Speaker(サラウンド)
ⓔ ⓕ	Dolby Enabled Speaker(バック)

Dolby Enabled Speakerはハイトスピーカー専用のスピーカーで、フロントスピーカーやサラウンドスピーカー等の天板の上に設置するタイプのものと、通常のスピーカーと一体型になったタイプのものがあります。スピーカーの振動板が天井に向くように取り付けられており、天井での音の反射を利用してDolby AtmosやDolby Surroundリスニングモードの効果を高めます。

天井にスピーカーを設置する

ⓖ ⓗ　トップフロント
ⓘ ⓙ　トップミドル
ⓚ ⓛ　トップリア

天井埋め込み型スピーカーなどを使用して、Dolby AtmosやDolby Surroundリスニングモードの効果を最大に高めます。トップフロントは視聴位置の真上とフロントスピーカー真上の中間位置あたりに、トップミドルは視聴位置の真上に、トップリアは視聴位置の真上とサラウンドバックスピーカー真上の中間位置あたりに設置します。

ハイト1/ハイト2スピーカー組み合わせパターン

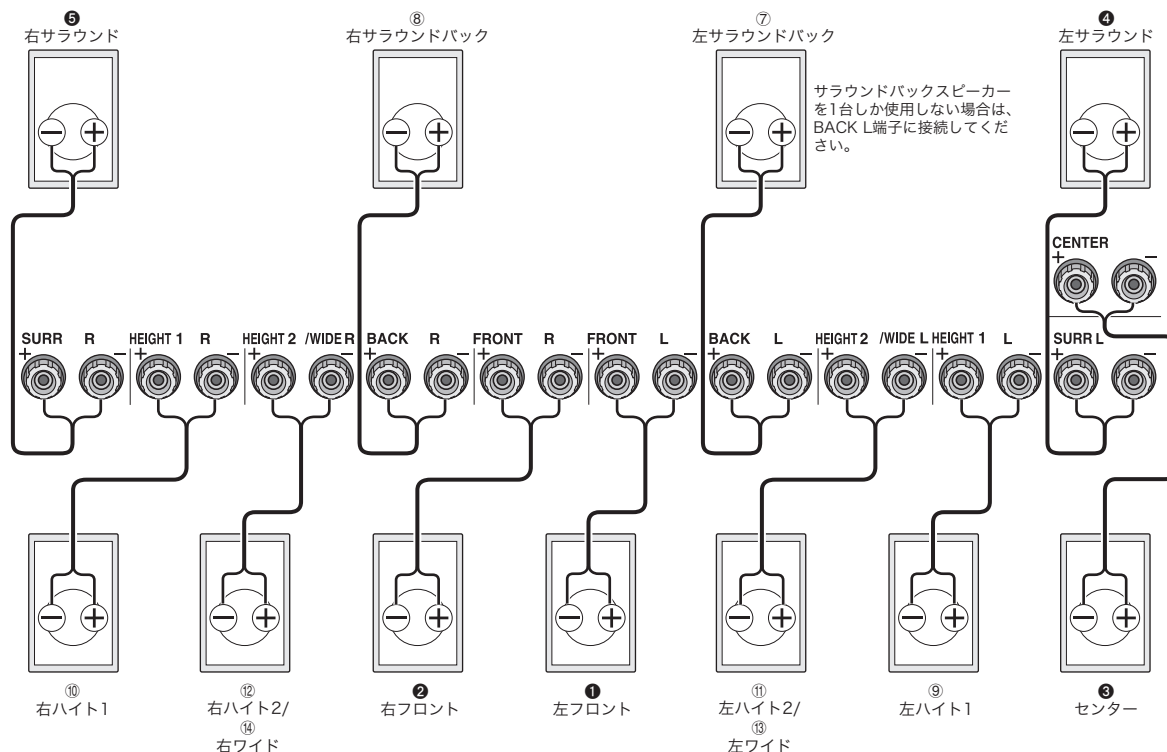
DolbyはDolby AtmosやDolby Surroundリスニングモードの効果を最大に高める組み合わせパターンとして、下記を推奨しています。
- ペア1：トップミドル
- ペア2：トップフロント / トップリア

以下はハイト1スピーカーのタイプ別に選択できるハイト2スピーカーのパターンです。

ハイト1スピーカー：**フロントハイ**

ハイト2スピーカー：使用しない/トップミドル/リアハイ/Dolby Enabled Speaker（サラウンド）/Dolby Enabled Speaker（バック）

ハイト1スピーカー：**トップフロント**

ハイト2スピーカー：使用しない/トップリア

ハイト1スピーカー：**トップミドル**

ハイト2スピーカーは使用できません。

ハイト1スピーカー：**Dolby Enabled Speaker（フロント）**

ハイト2スピーカー：使用しない/Dolby Enabled Speaker（サラウンド）/Dolby Enabled Speaker（バック）

ハイト1スピーカー：**Dolby Enabled Speaker（サラウンド）**

ハイト2スピーカーは使用できません。

ハイト1スピーカー：**Dolby Enabled Speaker（バック）**

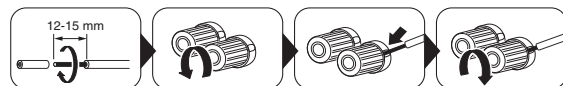
ハイト2スピーカーは使用できません。

- フロントスピーカーがバイアンプ接続の場合、ハイト2スピーカーは以下の中から選択できます。
  使用しない/フロントハイ/トップフロント/トップミドル/Dolby Enabled Speaker（フロント）/Dolby Enabled Speaker（サラウンド）/Dolby Enabled Speaker（バック）

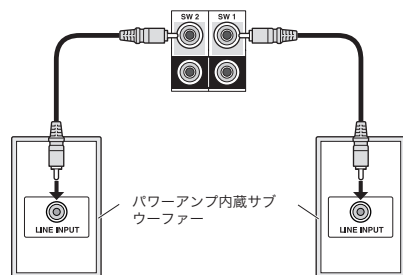
接続について

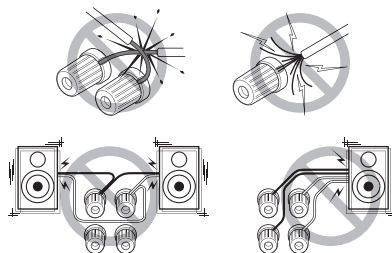
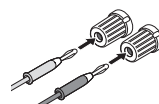
重要：インピーダンスが4〜16 Ωのスピーカーを接続してください。また、接続するスピーカーの中に、1台でも4 Ω以上6 Ω未満のスピーカーがあるときは、設定を行う必要があります。設定操作はテレビ画面に表示される操作画面で操作を行います。リモコンのRECEIVERボタンを押したあとに、HOMEボタンを押し、「セットアップ」-「2. スピーカー

設定」-「スピーカーセッティング」-「インピーダンス」を順に選び「6オーム(初期値)」を「4オーム」にしてください。

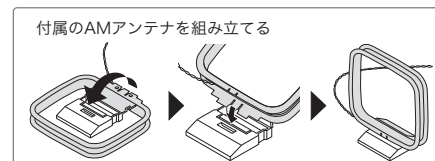
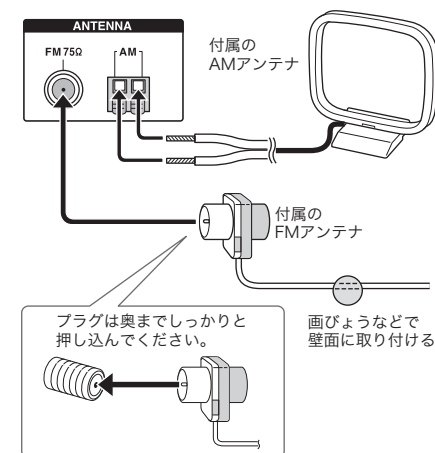
- リモコンのカーソルで内容を選び、ENTERボタンで決定します。ひとつ前の画面に戻るにはRETURNボタンを押します。

スピーカーコードは先端のビニールを切り取って芯線をよじって端子に接続してください。その際に、本機の端子のプラス(+)側とスピーカーの端子のプラス(+)側を、マイナス(−)側はマイナス(−)側とを、チャンネルごとに必ず合わせて接続してください。間違って接続すると、位相が逆になり低音が出にくくなります。付属のスピーカーコード用カラーラベルを使用して、各チャンネルのケーブルの両端の+側に取り付ければ接続が容易になります。

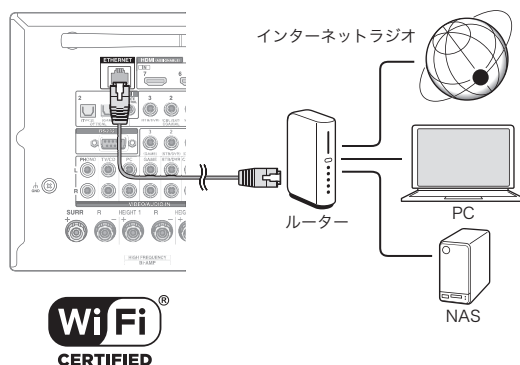
サブウーファーの接続について

サブウーファー端子には、パワーアンプ内蔵サブウーファーが最大4台まで接続できます。サブウーファーのカットオフフィルター切換スイッチはDIRECTにしてください。カットオフフィルター切換スイッチがなく、カットオフ周波数調整ツマミがある場合は、周波数を最大にしてください。ご使用のサブウーファーにアンプが内蔵されていない場合は、間にパワーアンプを接続してご使用ください。

- お買い上げ時は、7.2チャンネル接続の設定になっています。チャンネル数を変更する場合は自動スピーカー設定や手動設定で変更することができます。

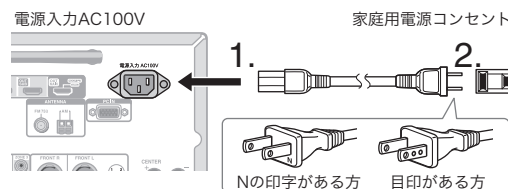
- プラス(+)のコードとマイナス(−)のコードをショートさせたり、コードの芯線を本機の後面パネルと接触させると故障の原因になります。また1つのスピーカー端子に2本以上のコードを接続したり、1台のスピーカーを複数の端子に接続しないでください。
- 設定よりも低いインピーダンスのスピーカーをお使いの場合、故障の原因になることがあります。

市販のバナナプラグをご使用の場合は：スピーカー端子をしっかり締めてから、バナナプラグを挿入してください。スピーカーコードの芯線を、スピーカー端子のバナナプラグ用の穴に直接挿入して接続しないでください。

3 その他の接続

AM/FMアンテナの接続

AM/FM放送を聴く場合は、必ずアンテナを接続してください。初めて放送を聴くときに、放送を聴きながら受信状態が良好になるようアンテナの位置を変えたり向きを調整してください。

ネットワークの接続

LANに接続して、インターネットラジオやDLNAを楽しむことができます。接続の方法はLANケーブルを使用してルータに有線接続する方法と、無線LANルータとWi-Fi接続する方法があります。有線の場合はETHERNET端子にLANケーブルを接続してください。Wi-Fiの設定は「Step 2:設定する」の2の項「第4ステップ：ネットワーク接続」をご覧ください。

電源コードの接続

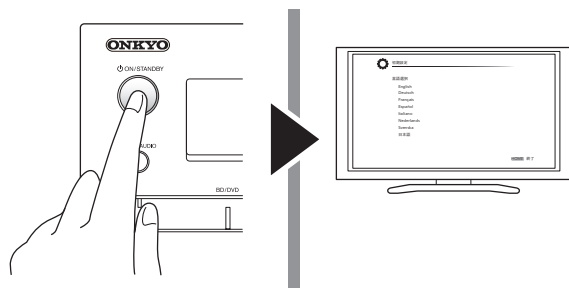
重要：電源コードは付属のものを使用し、すべての接続が終了してから接続してください。

電源コードを接続するときは、本機の電源入力AC100V端子に接続したあとで、家庭用電源コンセントに接続します。付属の電源コードは、音質向上のため極性の管理がされています。電源コードには2つのタイプがあり、電源プラグのＮの印字がある側か丸い目印がある側をコンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

- 家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で、電源入力AC100V端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードを抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、コンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

Step 2: 設定する

重要：はじめて本機の電源を入れると、2の項「設定ウィザード」が自動的に始まります。設定ウィザードで初期設定を行うには、テレビと本機のHDMI OUT MAINまたはSUB端子をHDMI接続することが必要です。

1 電源を入れる

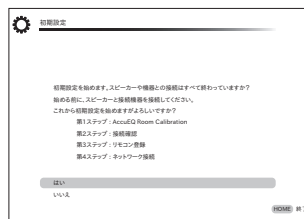
電源のオン/スタンバイは、本体の⏻ON/STANDBYボタンまたはリモコンの⏻RECEIVERボタンを押します。

ファームウェアアップデート通知について：本機をLAN接続している場合、ファームウェアの更新が可能なときは「最新のファームウェアがリリースされました」というメッセージが表示されます。アップデートを行う場合は、リモコンのカーソルボタンで「アップデートします」を選んでENTERボタンで決定してください。「Completed!」が表示されたあと、本体の⏻ON/STANDBYボタンを押して本機をスタンバイ状態にすると、更新が完了します。

- 「Completed!」が表示されたあと約3分後に、本機は自動的にスタンバイ状態になります。その場合もファームウェアは更新されます。

2 設定ウィザードで初期設定を行う

必ずお読みください：テレビ画面に表示されるガイダンスを見ながらスタートアップに必要な設定を質問形式で行います。リモコンのカーソルで内容を選び、ENTERボタンで決定します。ひとつ前の画面に戻るにはRETURNボタンを押します。

- 途中で終了してしまった場合や、再度設定ウィザードで初期設定を変更する場合は、リモコンのRECEIVERボタンを押したあとに、HOMEボタンを押し、「セットアップ」-「7. ハードウェア設定」-「初期設定」を順に選んでENTERボタンを押してください。

最初に言語を選択します。次に、設定ウィザードの概要が表示されますので、この画面で「はい」を選んでリモコンのENTERボタンを押してください。

設定ウィザードは次の4ステップで進みます。

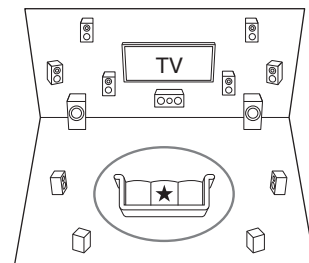
■ 第1ステップ：AccuEQ Room Calibration
■ 第2ステップ：接続確認
■ 第3ステップ：リモコン登録
■ 第4ステップ：ネットワーク接続

■ 第1ステップ：AccuEQ Room Calibration

各スピーカーから再生されるテスト音を測定して、スピーカーの数/音量レベル/各スピーカーの最適なクロスオーバー周波数/視聴位置からの距離を設定したり、部屋の環境による音のひずみを補正することができます。

- スピーカーの設定中は、RETURNボタンを押しても前の画面には戻れません。

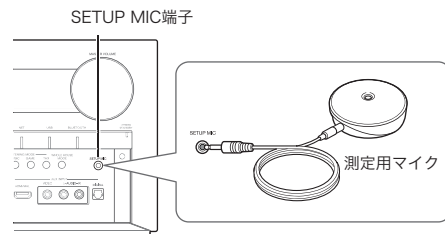
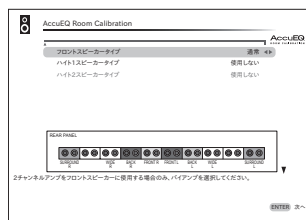
1. 測定用マイクを設置する

上記のスタート画面が表示されたら、操作を始める前に下図を参照して付属の測定用マイクを測定位置★に設置してください。

○：視聴エリア　★：マイク測定位置

＊ マイクを手で固定していると正確に測定できません。また、ヘッドホンを使用しているときは測定できません。
＊ サブウーファーの音声は、超低域のため認識されない場合があります。サブウーファーの音量を半分くらいまで上げ、周波数を最大にした状態でご使用ください。

＊測定時は各スピーカーから大きなテスト音が出ます。また、周囲の雑音や無線周波妨害（RFI）があると、部屋の測定が中断される場合があります。窓を閉めて家電機器や蛍光灯などをオフにしてください。

2. マイクを測定位置に設置したら、スタート画面で「すぐに設定します」を選び、ENTERボタンを押す

3. マイクを本機のSETUP MIC端子に接続する

4. テレビ画面に表示されるガイダンスに沿って操作する

上記の画面が表示されたら、リモコンのカーソルを使用して各項目を設定してください。ハイトスピーカーを設置している場合は、ハイト1、2のそれぞれのタイプを選びます。フロントとハイトスピーカーを選んだら、リモコンのカーソルボタン▼を押して画面を切り換え、サブウーファーの設定項目を選んでください。選択が終了したら、リモコンのENTERボタンを押してください。さらに次の画面でもう一度ENTERボタンを押すと、自動スピーカー設定が始まります。

- それぞれの項目にカーソルを移動すると画面の下部に使用するスピーカー端子と設定内容が表示されますのでご参照ください。

5. 接続したスピーカーからテスト音が出て、自動スピーカー設定が始まる

測定は各スピーカーに対して2回ずつ行います。完了するまでに数分かかります。測定中は、できるだけ静かにしてください。テスト音が出ないスピーカーがあれば接続されていない可能性がありますのでご確認ください。

- 測定中は各スピーカーより大音量のテスト音が出力されます。近隣住宅への音漏れや小さなお子様などに、充分ご注意ください。

6. 測定が完了したら、測定結果が表示される

リモコンの◄/►ボタンで各設定が確認できます。「設定保存」が選ばれた状態でENTERボタンを押してください。さらに次の「AccuEQ Room Calibration」が「オン」と表示された画面でリモコンのENTERボタンを押してください。

- エラーメッセージが出たときは、画面の指示に従ってエラーの原因を取り除いてください。

THXの再生環境について

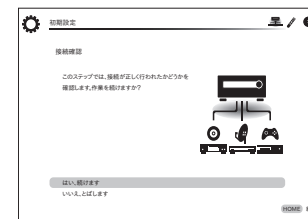
THX認定スピーカーをご使用の場合や、THX関連のリスニングモードで再生するときは、スピーカー設定を手動で設定し直すことを、THXは推奨しています。

- クロスオーバー周波数を「80Hz(THX)」に設定することを推奨しています。
- 各部屋の持つ固有の特性や、低域周波数の持つ無指向性などにより、スピーカー距離設定や音量設定が最適でない場合があります。各スピーカーやサブウーファーの設定を手動で調整することを推奨します。

7. 「測定マイクを抜いてください。」と表示されたら、マイクを取り外す

■ 第2ステップ：接続確認

各入力の接続が正しく行われているかを確認できます。

1. 接続確認のスタート画面が表示されたら、カーソルで「はい、続けます」を選び、ENTERボタンを押す

2. 接続を確認したい入力を選び、ENTERボタンを押す

選んだ機器の再生を開始してください。接続が正しいと、本機から選んだ入力の映像/音声が再生されます。

3. 接続を確認できたら、カーソルで「はい」を選び、ENTERボタンを押す

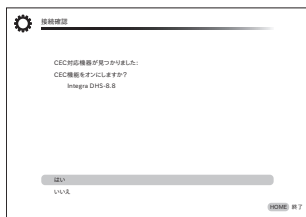
- 「いいえ」を選び、ENTERボタンを押すと、エラーの原因が表示されます。ガイダンスに沿ってエラーの原因を取り除き、接続を再度確認してください。

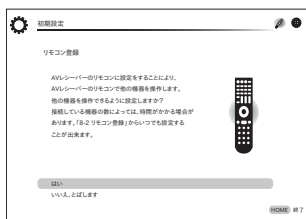
4. 他の入力の接続を確認する場合はカーソルで「はい」を、確認しない場合は「いいえ、確認を終了します」を選び、リモコンのENTERボタンを押す

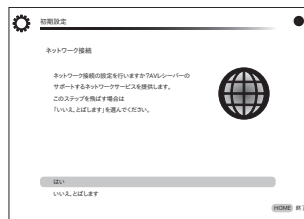
「はい」を選んだ場合は手順2の画面に戻ります。
「いいえ、確認を終了します」を選んだ場合は、手順5に進みます。

5. HDMI連動などの機能を有効にする

次の画面で、CEC対応機器とのHDMI連動や、ARC対応テレビとの接続、およびHDMIスルー機能を有効に設定することができます。設定を有効にするにはカーソルで「はい」を、確認しない場合は「いいえ、確認を終了します」を選び、リモコンのENTERボタンを押してください。

6. **CECの連動機能をオンにする場合はカーソルで「はい」を、オンにしない場合は「いいえ」を選び、ENTERボタンを押す**

「はい」を選んだ場合は、ARC対応テレビとの接続、およびHDMIスルー機能も「自動」になり有効になります。
- （設定ウィザード終了後）本体のRIHDボタンを押すことで、CEC連動機能のオン/オフ切換えが可能です。

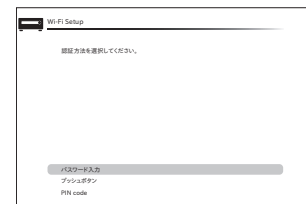
■ 第3ステップ：リモコン登録

このステップで、本機のリモコンで他機器の操作を行うことができるようになります。リモコン登録のスタート画面が表示されたら、カーソルで「はい」を選び、リモコンのENTERボタンを押します。ガイダンスに沿って、設定したいREMOTE MODEボタンを選んだあとは、キーボードの画面でプログラムするブランド名を3文字（例：ONKYOの場合「ONK」）入力して、リモコンコードを検索してください。ガイダンスではリモコンの設定方法なども説明しています。

■ 第4ステップ：ネットワーク接続

ネットワーク接続の確認やWi-Fi設定を行うことができます。ネットワーク接続のスタート画面が表示されたらカーソルで「はい」を選び、リモコンのENTERボタンを押します。次の画面で「有線」を選んだ場合はLANケーブル接続の接続状況を確認できます。Wi-Fi設定を行う場合は、「ワイヤレス」を選んでリモコンのENTERボタンを押して、以下の項をご参照ください。

事前にご確認ください
Wi-Fi接続には無線LANルータなどのアクセスポイント（＊）が必要です。アクセスポイントのSSIDとパスワード（キー）が本体ラベルに記載されている場合がありますのでメモに控えてください。アクセスポイントに自動設定ボタン（メーカーによって呼称が異なります）が装備されている場合は、パスワードの入力を行わずに設定することができます。アクセスポイントの自動設定ボタンの使用方法は取扱説明書でご確認ください。

＊ 本機は2.4 GHz帯対応のアクセスポイントとWi-Fi接続が可能です。

1. **カーソルで接続するアクセスポイントのSSIDを選び、ENTERボタンを押す**
   テレビ画面にアクセスポイントのSSIDが表示されますので、接続するアクセスポイントを選んでください。
   - アクセスポイントの初期設定を変更してパスワード入力を不要にしている場合は、自動的に手順3に進みます。
   - アクセスポイントの初期設定を変更してSSIDを非表示にしている場合は、「アクセスポイントが表示されない場合は」をご参照ください。

2. **認証方法を選んで設定する**
   無線LANルータに自動設定ボタンが装備されていない場合は、下記の画面ではなく、自動的に「パスワード入力」の画面が表示される場合があります。

上記の画面が表示されたら、「パスワード入力」「プッシュボタン」「PIN code」の3つ認証方法のうち、いずれかを選んで設定を行ってください。それぞれの内容と設定方法については以下をご参照ください。

「パスワード入力」：アクセスポイントのパスワードを入力して設定する方法です。
① カーソルで「パスワード入力」を選び、ENTERボタンを押す
② キーボード画面で、パスワードを入力（＊）してから、カーソルで「OK」を選び、ENTERボタンを押す
＊「Shift」を選びENTERボタンを押すと、大文字/小文字が切り換わります。「←」「→」を選びENTERボタンを押すと、その方向にカーソルが移動します。「Back Space」を選びENTERボタンを押すと、カーソルの左側の文字を1文字消去します。また、リモコンのDボタンを押すと、パスワードを「＊」で表示するか入力した文字をそのまま表示するか切り換えます。リモコンの＋10ボタンを押すと「Shift」の機能が使え、CLRボタンを押すと入力した文字をすべて消去します。
③ 接続するアクセスポイントのセキュリティ方式がWEPの場合は、「デフォルトキーID」を選び、「OK」を選び、ENTERボタンを押す

「プッシュボタン」：アクセスポイントの自動設定ボタンを使用して設定する方法です。
① カーソルで「プッシュボタン」を選び、ENTERボタンを押す
② アクセスポイントの自動設定ボタンを必要な秒数間押したあと、カーソルで「OK」を選び、ENTERボタンを押す

PINコード方式で接続する場合：アクセスポイントの自動設定ボタンに手が届かない場合など、この方法をご使用ください。カーソルで「PIN code」を選び、ENTERボタンを押すと、8桁のPINコードが表示されます。表示されたPINコードをアクセスポイントに登録して、カーソルで「OK」を選び、ENTERボタンを押します。アクセスポイントへのPINコードの登録方法については取扱説明書でご確認ください。

3. 接続

接続が始まり、本体表示部の左にあるWi-Fiインジケーターが点滅します。接続が成功するとWi-Fiインジケーターの点滅が点灯に変わります。Wi-Fiインジケーターが点灯に変わらない場合は接続ができていませんので、再度設定し直してください。「プッシュボタン」で接続できない場合は、「パスワード入力」でもお試しください。

アクセスポイントが表示されない場合は

リモコンのカーソルの►ボタンで「その他...」を選び、ENTERボタンを押すとキーボード画面が表示されますので、SSIDとパスワードを入力してください。ルータの設定に応じて次の設定を行ってください。

■ WPA/WPA2方式

「認証方法」で「WPA」または「WPA2」を選んで、「OK」を選び、ENTERボタンを押します。

■ WEP方式

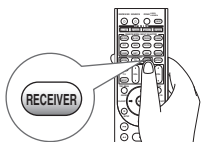
「認証方法」で「WEP」を選んで、「デフォルトキーID」を選びます。そのあと「OK」を選び、ENTERボタンを押します。

- 無線LANルータで暗号化設定がされていない場合は、「認証方法」で「無し」を選んで、「OK」を選び、ENTERボタンを押します。

■ 設定ウィザードを終了するには

初期設定が終了したら、「完了」が選ばれた状態でリモコンのENTERボタンを押してください。これで本機の接続と設定が完了しました。Step 3をご覧になって、ホームシアターをお楽しみください。

Step 3: 再生する

1 再生機器やテレビを再生する

●**本機を操作するときは**：本機のリモコンには、他の機器を操作するためのリモートモード機能が備わっています。リモートモードがRECEIVERモード（本機を操作するモード）以外の状態では、本機を操作することができませんので、本機を操作する際は、必ず⑨RECEIVERボタンを押してRECEIVERモードにしてから操作してください。

1. 電源を入れる

リモコンの①⏻RECEIVERボタンを押して電源を入れます。

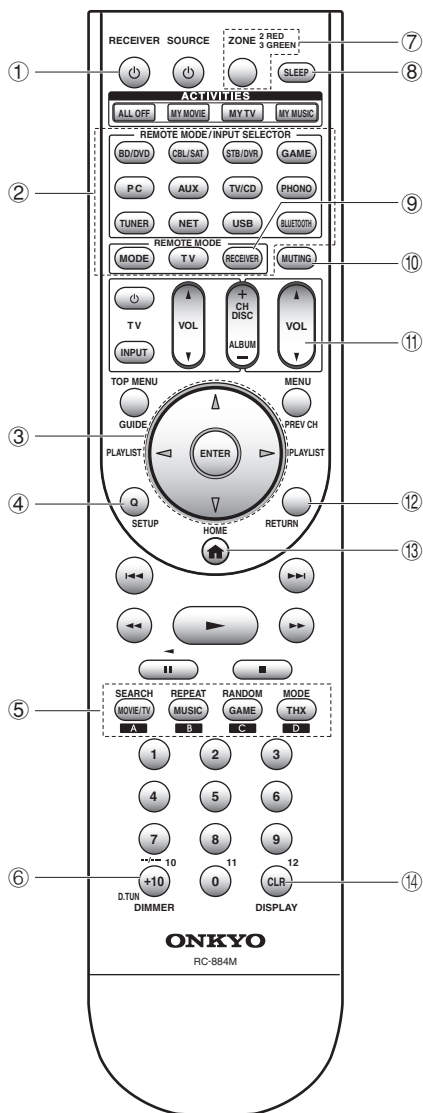
- テレビのリモコンを使用して、テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えてください。

2. 本機の入力切換を選び、再生機器やテレビを再生する

- 視聴する再生機器を接続した②INPUT SELECTORボタンを押してください。なお、テレビの音声を再生するにはTV/CDボタンを押します。本体の入力切換ボタンでも操作が可能です。
- 本機とHDMI 接続したCEC 対応テレビや再生機器の入力切換は自動で行われます。

3. お好みのリスニングモードを選ぶ

⑤リスニングモードボタンを押すことでモードが切り換わり、さまざまなリスニングモードをお楽しみいただけます。リスニングモードの内容については「リスニングモードについて」をご参照ください。

4. ⑪ボリュームボタンで音量を調整する

リモコンの各部の名称とはたらき

① **⏻RECEIVERボタン**：電源のオン/スタンバイを切り換えます。

② **REMOTE MODE/INPUT SELECTORボタン**：再生する入力を切り換えます。

③ **カーソル、ENTERボタン**：カーソルはメニュー項目などの選択に、ENTERボタンは選択している項目を確定するのに使用します。

④ **Q SETUPボタン**：入力の切り換えや音質の調整など、よく利用する設定項目にすばやくアクセスできるQuick Setupメニューが表示されます。

⑤ **リスニングモードボタン**：リスニングモードを選びます。

⑥ **DIMMERボタン**：表示部の明るさを切り換えます。MASTER VOLUMEつまみの点灯/消灯の切り替えも行えます。

⑦ **ZONEボタン**：別室のプリメインアンプと本機を接続して、別室で音声を聴くときに使用します。

⑧ **SLEEPボタン**：本機が自動的にスタンバイ状態になるまでの時間を設定します。

⑨ **RECEIVERボタン**：リモコンを、本機を操作するモードに切り換えます。

⑩ **MUTINGボタン**：一時的に消音します。

⑪ **ボリュームボタン**：音量を調整します。本機が消音状態のときは、消音状態を解除できます。

⑫ **RETURNボタン**：設定中にひとつ前の表示に戻します。

⑬ **HOMEボタン**：応用的な各種設定や、インターネットラジオ、DLNAなどが利用できるHomeメニューが表示されます。

⑭ **DISPLAYボタン**：表示部の情報を切り換えます。

- ①～⑭以外のボタンは、他の機器を操作するためのボタンです。

リスニングモードについて

ドルビーデジタルやDolby Atmos、DTSなどのリスニングモードを選びます。実際に音を出しながらモードをいろいろと切り換えて、お好みのモードに合わせてください。なお、選択できるリスニングモードは入力信号のフォーマットによって決まります。

MOVIE/TVボタン：映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードが選べます。

MUSICボタン：音楽を楽しむのに適したリスニングモードが選べます。

GAMEボタン：ゲームを楽しむのに適したリスニングモードが選べます。

THXボタン：THX関連のリスニングモードが選べます。

PURE AUDIOボタン（本体のみ）：表示部とアナログビデオ回路がオフになり、よりピュアな音質が楽しめます。

- リスニングモードの詳細は、WEB詳細ガイドでご覧いただけます。

入力された信号がそのまま再生できる「Direct」
このモードに合わせておくと、入力された信号がそのまま再生されます。たとえば音楽CD の2ch の信号が入力されればステレオで再生、5.1ch 信号が入力されれば5.1chで再生、ブルーレイディスクやDVDのドルビーデジタル信号が入力されればそのチャンネル数に応じたドルビーデジタル音場で再生されます。

その他の便利な機能

■ **異なるソースの音声と映像を再生する**：CDプレーヤーの音声に合わせてブルーレイディスク/DVDプレーヤーの映像を再生するなど、異なるソースの音声と映像を再生することができます。この場合は、ブルーレイディスク/DVDボタンを押したあと、TV/CDボタンを押します。このあとで、ブルーレイディスク/DVDプレーヤーとCDプレーヤーを再生します。この機能は音声のみの入力切換（初期設定ではTV/CD、TUNER、PHONO）を選んだときに有効です。

■ **音質を調整する**：フロントスピーカーの低音域や高音域を強調したり、弱めたりすることができます。本体のTONEボタンを繰り返し押して、「Bass」、「Treble」、「Phase Matching Bass」から調整したい内容を選び、＋または－ボタンで調整してください。

- リスニングモードがPure Audio、Direct、THXのときは、設定できません。

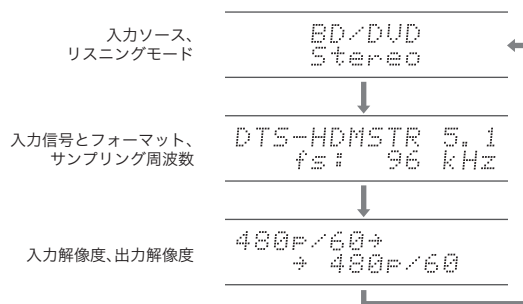
「Bass」：低音域を強調したり、弱めたりすることができます。

「Treble」：高音域を強調したり、弱めたりすることができます。

「Phase Matching Bass」：クリアーな中音域を維持しながら、低音域を効果的に強調することができます。

■ **一時的に消音する**：リモコンのMUTINGボタンを押します。解除するには再度MUTINGボタンまたはVOL▲/▼ボタンを押してください。

■ **表示部の明るさを変える**：リモコンのDIMMERボタンをくり返し押して明るさを選びます。

■ **入力フォーマットを確かめる**：リモコンのDISPLAYボタンをくり返し押すと、本体表示部が次の順に切り換わります。

- フォーマットの表示で「Dolby D 5.1」が表示された場合は、ドルビーデジタル5.1chの信号が入力されていることを示します。また、AM/FM放送を聴いているときは、バンド、周波数、プリセット番号が表示されます。

2 AM/FM 放送を聴く

基本操作マニュアルでは自動選局による操作方法を紹介しています。手動での選局方法などはWEB詳細ガイドでご覧いただけます。

1. 本体のTUNERボタンをくり返し押して、「AM」または「FM」を選ぶ

2. 本体のTUNING MODEボタンを押して、表示部の「AUTO」を点灯させる

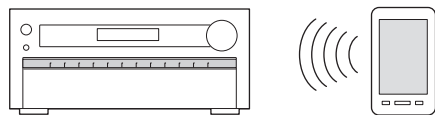
3. 本体のTUNING▼▲ボタンを押す
自動選局が始まり、放送局が見つかると自動的に停止します。放送局を受信すると、表示部の「►TUNED◄」が点灯します。FMステレオ局の場合は、「FM STEREO」が点灯します。

放送局を登録する

お好きなAM/FM放送局を最大40局まで登録できます。

1. 登録するAM/FM放送局を受信します。
2. 本体のMEMORYボタンを押して、表示部のプリセット番号を点滅させます。
3. プリセット番号が点滅している間（約8秒間）に、本体のPRESET◄►ボタンをくり返し押して1～40の間で番号を選びます。
4. 再度本体のMEMORYボタンを押します。
登録されるとプリセット番号の点滅が止まります。登録したプリセット局を選ぶには、本体のPRESET◄►ボタンまたはリモコンのCH ＋/–ボタンを押します。

3 Bluetooth 対応機器と接続して再生する

スマートフォンなどBluetooth対応機器の音楽ファイルをワイヤレスで楽しむことができます。約15メートル圏内で通信できます。

- Bluetooth対応機器がA2DPプロファイルをサポートしている必要があります。
- SCMS-Tコンテンツ保護方式に対応しています。SCMS-Tコンテンツ保護方式に対応したBluetooth対応機器の音楽を再生できます。
- すべてのBluetooth対応機器との接続動作を保証するものではありません。

ペアリングする

Bluetooth対応機器と接続するには、はじめに1回だけペアリングを行う必要があります。事前にBluetooth対応機器の「Bluetooth設定機能を有効(オン)にする方法」および「対応機器と接続する方法」の操作手順をお調べください。

1. リモコンのBLUETOOTHボタンを押す
ペアリングモードになりBLUETOOTHインジケーターが点滅します。

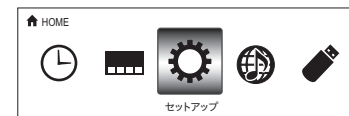
2. BLUETOOTHインジケーターが点滅している間(約2分間)に、近接した距離でBluetooth対応機器の接続操作を行う
Bluetooth対応機器の画面などで本機の名称が表示されたら、本機を選んでください。しばらくするとペアリングが完了します。
- パスワードを要求された場合、「0000」を入力してください。
- 別のBluetooth対応機器と接続する場合は、BLUETOOTHボタンをBLUETOOTHインジケーターが点滅するまで長押しするとペアリングができます。本機は最大10台のペアリング情報を記憶できます。

Bluetoothの音声を再生する

本機の電源がオンの状態のとき、Bluetooth対応機器の接続操作を行うと、自動的に「BLUETOOTH」入力切換が選ばれます。この状態で音楽ファイルを再生してください。
- 本機の電源をオンにした状態から接続するまでは、Bluetooth機能の起動のため約1分かかることがあります。
- Bluetooth対応機器のボリューム設定が小さいと、本機から音声が出力されません。
- Bluetooth ワイヤレス技術の特性上、本機での再生音はBluetooth対応機器での再生音と比べてやや遅れることがあります。
- 本体表示部にはBluetooth対応機器名が表示されますが、日本語の表示には対応しておりません。表示できない文字はアスタリスク(＊)に置き換わります。

4 Home メニューを使う

Homeメニューでは、応用的なセットアップや、インターネットラジオ、DLNA機能などを操作できます。なお、操作の詳細についてはWEB詳細ガイドでご覧いただけます。

1. リモコンのRECEIVERボタンを押したあとに、HOMEボタンを押す
Homeメニューがテレビ画面に表示されます。本体のHOMEボタンでも操作できます。

2. リモコンのカーソルで内容を選び、ENTERボタンで決定する
ひとつ前の画面に戻るにはRETURNボタンを押します。Homeメニューに戻る場合は、HOMEボタンを押します。

■ **スリープタイマー**：指定した時間が経過したら、自動的に本機をスタンバイ状態にするときに選びます。

■ **InstaPrevue**：HDMI入力端子からの映像をひとつの画面にまとめてプレビュー表示するときに選びます。親画面(現在の入力映像)と子画面(その他の入力映像)が表示されます。カーソルで子画面を選び、ENTERボタンを押すとその入力に切り換わります。
- 入力映像がない場合は、黒い子画面が表示されます。
- HDMI IN 5、6または7からの映像を入力している場合は、「InstaPrevue」は選べません。
- 「ゾーン2モニター出力設定」設定が「使用する」かつゾーン2がオンのときは、「InstaPrevue」は選べません。
- 映像の信号方式によっては、子画面に正しく表示されないことがあります。

■ **セットアップ**：入力端子と入力切換ボタンの割り当ての変更や、スピーカーの各種設定など、応用的な設定を行います。

■ **ネットワークサービス**：インターネットラジオサービスやDLNA機能などを利用するときに選びます。本機をネットワークに接続して、ENTERボタンを押すと、テレビにネットワークサービス画面が表示されます。テレビの画面を見ながらリモコンのカーソルでサービスや曲を選び、ENTERボタンで決定して再生します。

インターネットラジオサービス：TuneInなど、あらかじめ登録されたインターネットラジオを聴くことができます。

DLNA：ネットワークに接続したPCやNASに保存された音楽ファイルを再生できます。カーソルでサーバーを選んだあと、再生する曲を選んでENTERボタンで再生します。

Home Media：ネットワークに接続したPCやNASの共有フォルダ内の曲を再生できます。カーソルでサーバーを選んだあと、再生する曲を選んでENTERボタンで再生します。

- 「ネットワークサービス」を選択できない場合は、ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。起動には約1分かかることがあります。
- 「ネットワークサービス」を初めて選んだときは、テレビに「免責事項」の画面が表示されます。同意できる場合は「同意する」を選んでください。同意できない場合は、ネットワークサービスを利用することができません。
  ＊テレビとHDMI接続していない場合は、「免責事項」の画面で「同意する」を選択できないので、この機能を使用することができません。
- 「ネットワークサービス」のトップメニューのアイコンは配置を入れ替えることができます。まず、リモコンのNETボタンを押してから、Dボタンを押します。次に、カーソルで入れ替え元のアイコンを選んでENTERボタンを押し、そのあとに入れ替え先のアイコンを選んでENTERボタンを押すと入れ替わります。

■ **USB**：テレビの画面で「USB」を選んだあと、USBストレージを前面のUSB端子に接続します。テレビの画面を見ながら、リモコンのカーソルでフォルダや曲を選び、ENTERボタンで決定して再生します。

- 「USB」が選択できない場合は、USB機能が起動すると選べるようになります。起動には約1分かかることがあります。

5 Quick Setup メニューを使う

Quick Setupメニューでは、入力の切り換えや音質の調整など、よく利用する設定が行えます。

1. リモコンのQ SETUPボタンを押す

接続したテレビ画面にQuick Setupメニューが表示されます。

2. リモコンのカーソルで内容を選び、ENTERボタンで決定する

ひとつ前の画面に戻るにはRETURNボタンを押します。

■ **入力**：入力を切り換えたり、各入力切換の割り当てを確認できます。

■ **オーディオ**：音質やスピーカーレベルの調整などさまざまな音声設定を変更できます。

- 音声をテレビのスピーカーで聴いているときは、この設定を選べません。

A/Vシンク：映像が音声より遅れている場合、音声を遅らせて映像と音声のずれを調整できます。各入力に個別に設定することができます。

- 「NET」、「USB」、「BLUETOOTH」入力切換時は設定できません。
- リスニングモードがPure AudioまたはDirectのときは、設定できません。

低域、高域：フロントスピーカーの音質を調整できます。

- リスニングモードがPure Audio、Direct、THXのときは、設定できません。

Phase Matching Bass：中音域での位相ずれを抑えて低音を増強します。滑らかで、かつパワフルな低音域再生を実現します。

- リスニングモードがPure Audio、Direct、THXのときは、設定できません。

サブウーファー1レベル/サブウーファー2レベル、センター：音声を聴きながら、スピーカーレベルを調整できます。調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると設定前の内容に戻ります。

- 「スピーカー詳細設定」で「無し」に設定したスピーカーは調整できません。
- 「スピーカー詳細設定」で「サブウーファー」を「1ch」に設定した場合は、「サブウーファー2レベル」は調整できません。

AccuEQ Room Calibration：自動スピーカー設定による音場補正を無効にします。この設定は、各入力ごとに行えます。

- この設定は、自動スピーカー設定を行っていないと選べません。
- ヘッドホンを接続している、またはリスニングモードがPure AudioまたはDirectのときは、設定できません。

レイトナイト：小さな音でも細かな音が聴こえやすくなる機能です。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。Dolby Digital、Dolby Digital Plus再生時のみに効果があります。

- 本機をスタンバイ状態にすると「オフ」に設定されます。
- 「Loudness Management」の設定を「オフ」にしている場合、この機能は使用できません。

Music Optimizer：圧縮された音声をより良い音質にします。MP3などの非可逆圧縮ファイルの再生時に効果があります。この設定は、各入力ごとに行えます。

- サンプリング周波数が48 kHz以下の信号に働きます。ビットストリーム信号は効果がありません。
- リスニングモードがPure AudioまたはDirectのときは、設定できません。

Re-EQ、Re-EQ(THX)：映画館での再生に最適化されたサウンドトラックを、ホームシアターでの再生に適した音質に補正します。

- Re-EQで使用できるリスニングモードは、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Multichannel、DTS、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio、DTS Express、DSD、DTS Neo:X Cinemaです。
- Re-EQ(THX)で使用できるリスニングモードは、THX Cinema、THX Surround EX、THX Select2 Cinemaです。

Screen Centered Dialog：セリフなどのセンタースピーカーの音像を、ハイトスピーカーを使用してテレビ画面の高さに合わせて上方向へ移動する機能です。数値が大きくなるにしたがい、センターの音像は上方向に移動します。
- 選択されているリスニングモードによっては、設定ができない場合があります。
- ヘッドホンを接続している場合は、使用できません。
- 「ハイト1スピーカータイプ」が「フロントハイ」に設定されていない場合、この機能は使用できません。

スピーカーレイアウト:サラウンドバックスピーカー、ハイト1/2スピーカー、ワイドスピーカーを同時に接続している場合、優先的に使用したいスピーカーを設定することができます。

「バック＋ハイト 1」：サラウンドバックスピーカーとハイト1スピーカーからの音声を優先して出力します。
「バック＋ワイド」：サラウンドバックスピーカーとワイドスピーカーからの音声を優先して出力します。
「ハイト 1＋2」：ハイト1スピーカーとハイト2スピーカーからの音声を優先して出力します。
「バック」、「ハイト 1」：サラウンドバックスピーカー、ハイト1スピーカーを接続し、ハイト2/ワイドスピーカー端子（ZONE2端子）を使用してゾーン2再生をしている場合に表示されます。「バック」は、サラウンドバックスピーカーからの音声が優先されます。「ハイト 1」は、ハイト1スピーカーからの音声が優先されます。
「バック」、「ワイド」：サラウンドバックスピーカー、ワイドスピーカーを接続し、ハイト1スピーカー端子（ZONE3/Bi-AMP端子）を使用してバイアンプ接続またはゾーン3再生をしている場合に表示されます。「バック」は、サラウンドバックスピーカーからの音声が優先されます。「ワイド」は、ワイドスピーカーからの音声が優先されます。
「バック」、「ハイト 2」：サラウンドバックスピーカー、ハイト2スピーカーを接続し、ハイト1スピーカー端子（ZONE3/Bi-AMP端子）を使用してバイアンプ接続またはゾーン3再生をしている場合に表示されます。「バック」は、サラウンドバックスピーカーからの音声が優先されます。「ハイト 2」は、ハイト2スピーカーからの音声が優先されます。

- 再生しているソースやスピーカー構成など、条件によって選択できる項目が変わります。
- 「スピーカー詳細設定」の設定で「無し」に設定したスピーカーは選べません。
- 「11ch再生」の設定で「有り」に設定している場合、この機能は使用できません。
- サラウンドバックスピーカー、ハイト1/2スピーカーおよびワイドスピーカーに対応していないリスニングモードを使用している場合、この機能は効果がありません。
- 選択しているリスニングモードや再生中のソースによっては、この機能の効果がない場合があります。

■ **ビデオ**：

モニター出力設定：本機に入力された映像入力信号をHDMI OUT端子からテレビに出力する際に、ご使用のテレビの解像度に一致するように出力解像度を本機で変換します。出力するHDMI OUT端子を選びます。

制御するモニター：マルチゾーン機能を使用して別室のテレビとHDMI接続しているとき、メインルームまたは別室のどちらのテレビとのCEC連動機能を有効にするかを設定します。
- マルチゾーン機能については次項の「マルチゾーン機能を使用する」をご覧ください。

ワイドモード：画面の縦横比を設定します。

ピクチャーモード：画質を調整できます。「Cinema」を選ぶと映画に適した設定に、「Game」を選ぶとゲームの画面に適した設定に自動的に調整されます。「スタンダード」を選ぶと、解像度は変更しますが画質の調整はされません。「カスタム設定」、「ISF昼間設定」、「ISF夜間設定」を選ぶと、好みに応じて明るさ、コントラスト、色合い、色の濃さが調整できます。解像度も画質も調整しない場合は、「バイパス」を選んでください。

- 「NET」、「USB」、「BLUETOOTH」の入力切換時は、「ビデオ」を選択できません。

■ **情報表示**：

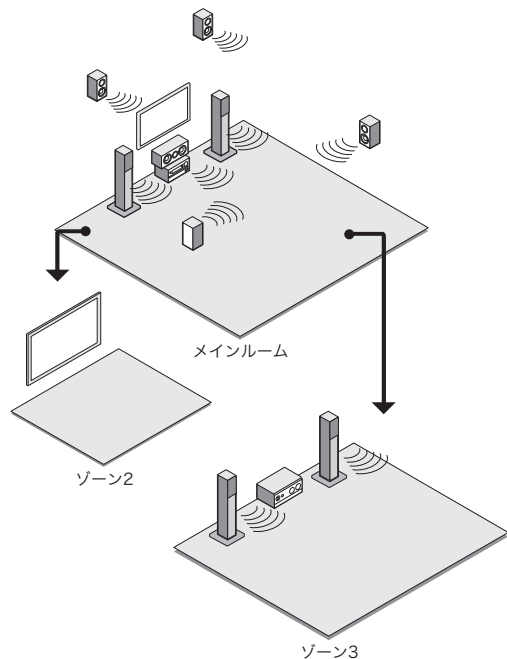
オーディオ：音声の入力、フォーマット、チャンネル数、サンプリング周波数、リスニングモード、出力チャンネル数など、オーディオ（音声）の情報を表示できます。

ビデオ：映像の入力、解像度、信号形式、色階調、3D情報、画面アスペクト比、ピクチャーモード、出力など、ビデオ（映像）の情報を表示できます。

チューナー：バンド、周波数、プリセット番号など、チューナー（ラジオ）の情報を表示できます。

■ **リスニングモード**：「MOVIE/TV」、「MUSIC」、「GAME」、「THX」のカテゴリーでリスニングモードを選ぶことができます。
- 音声をテレビのスピーカーで聴いているときは設定できません。

6 マルチゾーン機能を使用する

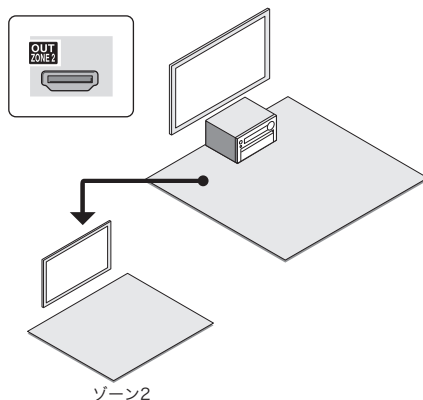
本機と別室のテレビやオーディオ機器を接続して、本機に接続した再生機器などの映像/音声を別室でもお楽しみいただける機能です。本機を設置したメインルームでブルーレイディスクプレーヤーを再生し、別室でインターネットラジオを再生するなどメインルームと別室を同時に再生することも、別室のみで再生をすることも可能です。マルチゾーン接続には次項のa.〜c.の3とおりの方法があります。なお、すべてのゾーンの同時再生も可能です。

●**別室でお楽しみいただけるソースについて**：ゾーン2は本機のHDMI入力またはアナログオーディオ入力端子（＊）に接続した再生機器、「NET」、「USB」、「BLUETOOTH」、「AM」または「FM」から選択できます。ゾーン3はアナログオーディオ入力端子（＊）に接続した再生機器、「NET」、「USB」、「BLUETOOTH」、「AM」または「FM」から選択できます。

＊ CDプレーヤーなど、HDMI出力端子を持たない機器と接続する場合は、本機のアナログオーディオ入力端子に接続してください。光デジタルケーブルや同軸デジタルケーブルの接続ではマルチゾーン出力はできません。また、アナログ接続を行った場合、再生機器側でアナログ音声出力の設定が必要なことがあります。

- HDMI入力およびアナログオーディオ入力の音声は、本機を設置したメインルームと別室とで同じソースを聴くことも別々のソースを聴くこともできます。
- 「NET」、「USB」、「BLUETOOTH」音声は、メインルームと別室とでそれぞれ別々に選ぶことはできません。たとえば、メインルームで「NET」入力切換を選んでいるときに別室で再生する入力として「USB」を選ぶと、メインルームも自動的に「USB」入力切換に切り換わります。
- AM/FM放送をお聴きになる場合、メインルームと別室で違う放送局を選ぶことはできません。同じ放送局をそれぞれの部屋でお聴きいただけます。
- メインルームと別室とで、HDMI接続している同じ再生機器を再生する場合は、メインルームの再生は2chPCM信号に対する音場処理となります。

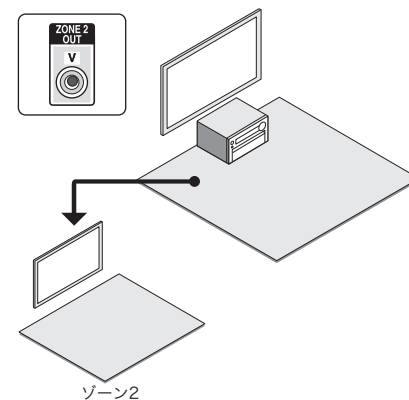
別室に映像/音声を出力する

■ a. 別室のテレビをHDMI接続する場合

HDMI接続した再生機器の映像と音声を、別室のテレビで楽しむことができます。HDMIケーブルを使用して本機のHDMI OUT ZONE2端子と別室のテレビのHDMI IN端子を接続します。

設定が必要です：リモコンのRECEIVERボタンを押したあとにHOMEボタンを押し、「セットアップ」-「1. 入力/出力端子の割り当て」-「モニター映像出力」-「ゾーン2モニター出力設定」を順に選び、「使用する」に設定してください。

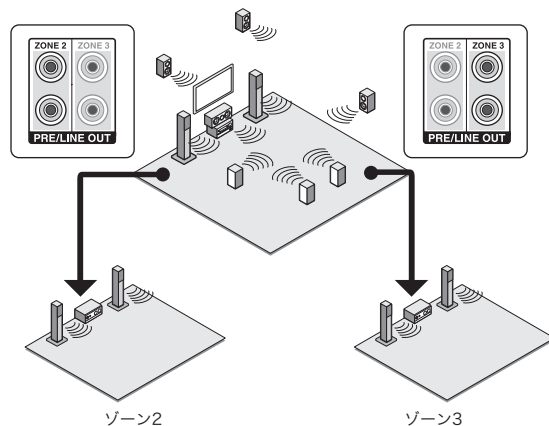
- 別室のテレビとのCEC連動機能を使用する場合は、前項「Quick Setupメニューを使う」の「制御するモニター」をご覧ください。

■ b. 別室のテレビをコンポジットビデオケーブルで接続する場合

HDMI端子を持たない再生機器の映像を、別室のテレビに映し出すことができます。再生機器を本機のコンポジットビデオ端子に接続したうえで、テレビと本機のZONE2 OUT V端子をコンポジットビデオケーブルを使用して接続してください。

- HDMI IN端子、COMPONENT VIDEO IN端子に接続した再生機器の映像を、別室のテレビに出力することはできません。
- この接続方法では、テレビから再生機器の音声は出力されません。音声を別室に出力するには次項の「別室で音楽を鑑賞する」をご覧いただき、テレビと同じ部屋のプリメインアンプを本機と接続してください。

別室で音楽を鑑賞する

■ c. 別室のプリメインアンプを接続する場合

メインルームで9.2 ch再生をしながら、別室で2 chの音声をお楽しみいただけます。本機のPRE/LINE OUT ZONE2端子またはPRE/LINE OUT ZONE3端子と、別室のプリメインアンプなどのラインイン端子をオーディオ用ピンケーブルで接続します。

- 音量は、本機と別室で使用するプリメインアンプとの両方で調整することができます。本機で調整する場合は、リモコンのRECEIVERボタンを押したあとにHOMEボタンを押し、「セットアップ」-「7. ハードウェア設定」-「マルチゾーン」-「ゾーン2出力」または「ゾーン3出力」を順に選び、「可変」に設定してください。パワーアンプを接続する場合は、この設定を必ず行い、メインルーム側で音量を調整してください。

マルチゾーン再生をする

1. リモコンのZONEボタンをくり返し押して、ゾーン2またはゾーン3を選び、リモコンを本機に向けて⏻RECEIVERボタンを押す

本体表示部の「Z2」または「Z3」が点灯し、マルチゾーン機能がオンになります。

- ゾーン2を選ぶとリモコンのZONEボタンが赤く点灯し、ゾーン3を選ぶと緑色に点灯します。

2. 別室で再生したい入力のINPUT SELECTORボタンを押す

マルチゾーン再生時に本機の電源をスタンバイにすると、Z2/Z3表示がうす暗く点灯し、別室のみの再生モードに切り換わります。また、本機がスタンバイ時に上記の1～2の操作を行っても、別室のみの再生モードになります。

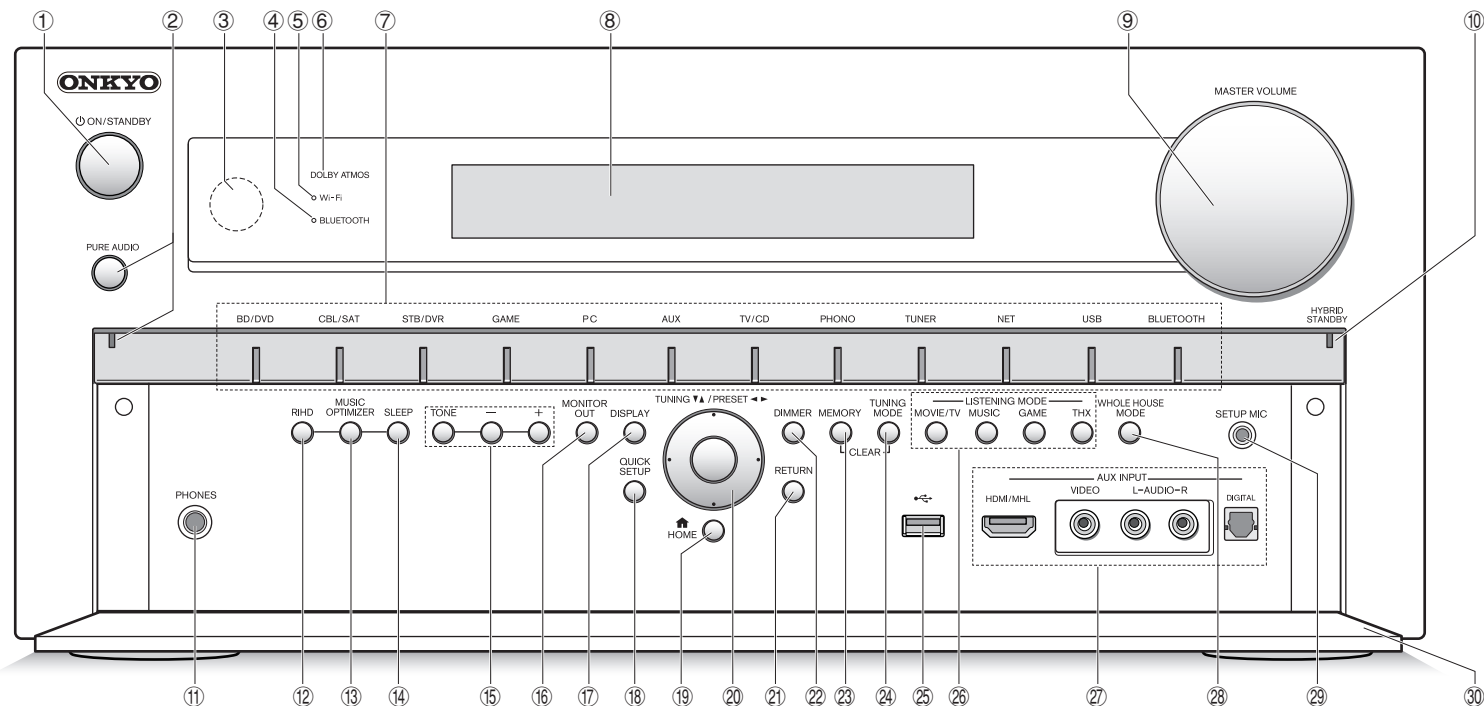
マルチゾーン機能をオフにするには：リモコンのZONEボタンをくり返し押してゾーン2またはゾーン3を選んだあとに、⏻RECEIVERボタンを押します。

音量を調整するには：リモコンのZONEボタンをくり返し押してゾーン2またはゾーン3を選んだあとに、VOL▲/▼ボタンで調整してください。

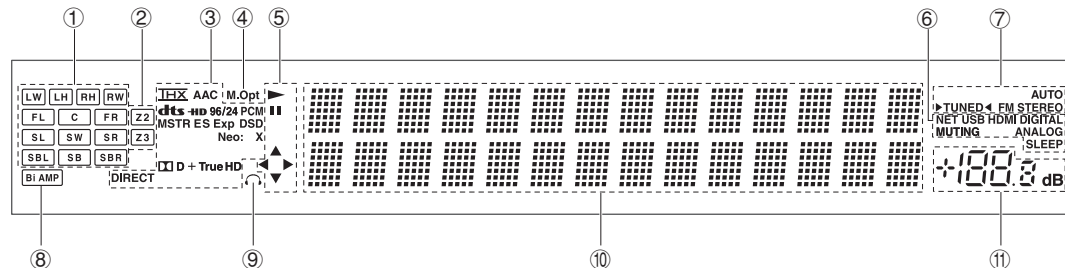
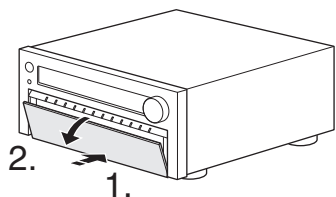
一時的に音量を消すには：リモコンのZONEボタンをくり返し押してゾーン2またはゾーン3を選んだあとに、MUTINGボタンを押します。

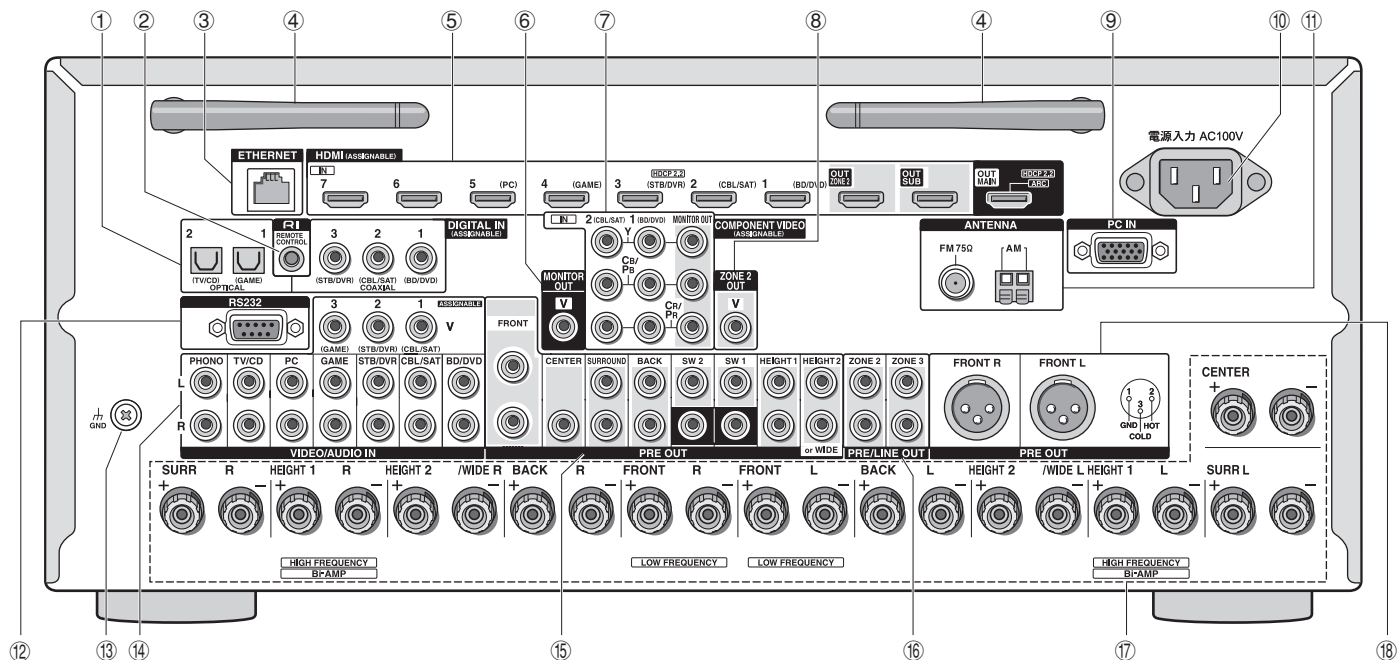
- 別室のテレビをHDMI接続している場合は、テレビ画面に接続機器の情報を表示することができます。リモコンのZONEボタンをくり返し押してゾーン2を選んだあとに、DISPLAYボタンを押してください。
- ゾーン2またはゾーン3がオンのときは、スタンバイ時の消費電力が増加します。
- メインルームでPure Audioモード選択時に、ゾーン2またはゾーン3をオンにすると、自動的にDirectに変更されます。
- ゾーン2またはゾーン3がオンになっているときは、RI連動機能（オンキヨー機器同士の連動機能）は働きません。
- ゾーン2またはゾーン3をリモコンで操作しているときに、リモコンのINPUT SELECTORボタンを押すと、リモコンがメインルームの操作モードに切り換わります。再度ゾーン2またはゾーン3の操作をするには、ZONEボタンをくり返し押して、ゾーン2またはゾーン3を選んでください。

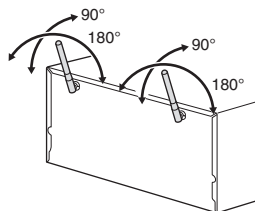
WHOLE HOUSE MODE：メインルームで再生中にWHOLE HOUSE MODEボタンを押すと、表示部の「Z2」と「Z3」が同時に点灯し、同じソースが全室で瞬時に再生されるWHOLE HOUSE MODE機能がオンになります。

- WHOLE HOUSE MODEはアナログオーディオ入力端子に接続した外部再生機器の再生のみに有効です。
- ヘッドホンを接続しているときやテレビのスピーカーから音声を出力しているときは、この機能は使用できません。

前面パネル

① ⏻ON/STANDBYボタン：電源のオン/スタンバイを切り換えます。
② PURE AUDIOボタン/インジケーター：リスニングモードをPure Audioに切り換えます。Pure Audioモードのとき、インジケーターが点灯します。
③ リモコン受光部：リモコンからの信号を受信します。
④ BLUETOOTHインジケーター：Bluetooth対応機器とペアリング中は点滅し、ペアリングが完了すると点灯します。
⑤ Wi-Fiインジケーター：無線LANルータとの接続時に点灯します。
⑥ DOLBY ATMOSインジケーター：ハイトスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーまたはワイドスピーカーを有効に設定している状態で、Dolby Atmosリスニングモードを選ぶと点灯します。
⑦ 入力切換ボタン：再生する入力を切り換えます。
⑧ 表示部
⑨ MASTER VOLUMEつまみ/インジケーター：音量を調整します。
⑩ HYBRID STANDBYインジケーター：HDMIスルー、ネットワークスタンバイ、Bluetoothの起動機能が有効に設定されているときに本機がスタンバイになると点灯します。
⑪ PHONES端子：標準プラグ（φ6.3 mm）のステレオヘッドホンを接続します。ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が出力されません。
⑫ RIHDボタン：HDMI連動機能のオン/オフを切り換えます。
⑬ MUSIC OPTIMIZERボタン：圧縮された音声をより良い音質にするミュージックオプティマイザー機能のオン/オフを切り換えます。
⑭ SLEEPボタン：指定した時間が経過したら、本機を自動的にスタンバイ状態にする設定が行えます。
⑮ TONE、トーンレベルボタン：高音、低音を調整します。
⑯ MONITOR OUTボタン：本機に入力された映像入力信号を出力するHDMI端子を選びます。
⑰ DISPLAYボタン：表示部の情報を切り換えます。
⑱ QUICK SETUPボタン：Quick Setupメニューを表示します。
⑲ HOMEボタン：Homeメニューを表示します。

⑳ **カーソル、TUNING▼▲、PRESET◄►、ENTERボタン**：メニュー項目の選択や確定をします。また、AM/FM放送を聴くときにTUNING▼▲ボタンで周波数を選び、PRESET◄►ボタンで登録した放送局を選びます。
㉑ **RETURNボタン**：設定中に1つ前の表示に戻します。
㉒ **DIMMERボタン**：表示部の明るさを切り換えます。
㉓ **MEMORYボタン**：放送局を登録したり削除します。
㉔ **TUNING MODEボタン**：選局モードを切り換えます。
㉕ **USB端子**：USBストレージを接続して音楽ファイルを再生します。
㉖ **LISTENING MODEボタン**：リスニングモードを選びます。
㉗ **AUX INPUT HDMI/MHL端子**：HDビデオカメラやMHL対応モバイル機器などを接続します。MHL対応モバイル機器の映像と音声を伝送することができます。
AUX INPUT VIDEO/AUDIO、DIGITAL端子：ビデオカメラなどを接続します。
㉘ **WHOLE HOUSE MODEボタン**：マルチゾーン接続した全室で同じソースを再生するWHOLE HOUSE MODE機能を操作します。
㉙ **SETUP MIC端子**：付属の測定用マイクを接続します。
㉚ **フロントドア**

表示部

① スピーカー/チャンネル表示：リスニングモードに対応した出力チャンネルを表示します。
② 「Z2」/「Z3」：ゾーン2/ゾーン3への出力をオンにすると点灯します。
③ 入力されているデジタル信号の種類やリスニングモードに応じて点灯します。
④ ミュージックオプティマイザーが有効に設定されているときに点灯します。
⑤ NET、USB操作時に点灯します。
⑥ 「NET」：入力に「NET」が選ばれているとき、本機がホームネットワーク（LAN）に接続されていると点灯します。正しく接続されていないときは点滅します。
「USB」：入力に「USB」が選ばれているとき、USBストレージ（USBメモリーなど）が接続されていると点灯します。正しく接続されていないときは点滅します。
「HDMI」：HDMI信号が入力かつ選択されているときに点灯します。
「DIGITAL」：デジタル信号が入力かつ選択されているときに点灯します。
「MUTING」：ミューティングモードのときに点滅します。
「ANALOG」：アナログ信号が入力かつ選択されている、またはHDMI、デジタル信号の入力が割り当てられていないときに点灯します。
「SLEEP」：スリープタイマーが設定されているときに点灯します。
⑦ AM/FM受信状態表示
「AUTO」：選局モードがオートのときに点灯します。
「TUNED」：自動的に放送局を探しているときは、▶◀が点滅します。放送局を受信すると「▶TUNED◀」が点灯します。
「FM STEREO」：FM ステレオ局を受信すると点灯します。
⑧ 「Bi AMP」：「フロントスピーカータイプ」が「バイアンプ」に設定されているときに点灯します。
⑨ ヘッドホンを接続時に点灯します。
⑩ 入力信号のさまざまな情報を表示します。DISPLAYボタンを押すと、入力されている信号のフォーマットやリスニングモードなどを表示します。
⑪ ボリュームレベル音量を表示します。

後面パネル

① **DIGITAL IN COAXIAL/OPTICAL端子**：デジタル音声を入力する端子です。
② **RI REMOTE CONTROL端子**：RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。
③ **ETHERNET端子**：LAN接続に使用します。
④ **無線アンテナ**：Wi-Fi接続を行う場合や、Bluetooth対応機器をご使用の場合に使用します。接続状況に応じて、アンテナの角度を調整してください。

⑤ **HDMI IN/OUT端子**：接続した機器とデジタル映像信号および音声信号を伝送する端子です。
⑥ **MONITOR OUT V端子**：接続しているモニターやテレビにコンポジットビデオケーブルを使用してビデオ映像を出力する端子です。
⑦ **COMPONENT VIDEO IN/OUT端子**：コンポーネント映像の入出力端子です。
⑧ **ZONE2 OUT V端子**：接続している別室のテレビに、再生機器の映像を出力する端子です。
⑨ **PC IN端子**：アナログRGBケーブルを使用して、PCと接続します。
⑩ **電源入力AC100V端子**：付属の電源コードを接続します。
⑪ **ANTENA AM/FM75Ω端子**：付属のアンテナを接続します。
⑫ **RS232端子**：ホームコントロールシステムに接続する端子です。(＊)
⑬ **GND端子**：レコードプレーヤーのアース線を接続します。
⑭ **コンポジットビデオ/アナログオーディオ端子**：アナログ映像信号および音声信号を入力する端子です。
⑮ **PRE OUT端子**：パワーアンプやアンプ内蔵サブウーファーを接続します。
⑯ **PRE/LINE OUT ZONE 2/ZONE 3端子**：マルチゾーン機能を使用する際に、別室のプリメインアンプを接続する音声出力端子です。
⑰ **SPEAKERS端子**：スピーカーを接続します。
⑱ **BALANCE PRE OUT端子**：バランス型XLR入力端子があるアンプを接続します。

＊ コントロール機能を使用するには、専用の機器やケーブル配線などの導入が必要です。専門の販売店にお問い合わせください。

困ったときは

はじめにお読みください
トラブルは接続や設定、操作方法を見直す以外にも、電源のオン/オフ、電源コードの抜き差しで改善することがあります。本機や接続している機器の両方でお試しください。また、映像や音声が出ない、HDMI連動ができないなどの場合、接続しているHDMIケーブルの抜き差しを行うと改善することもあります。差し直す際は、HDMIケーブルが巻かれていると接触が悪くなりますので、なるべく巻かずに差し直してください。差し直したあとは、本機と接続している機器の電源を一度オフにし、再度電源を入れ直してください。

本機の電源が切れる

- 自動スタンバイが作動すると、自動的にスタンバイ状態になります。

音声が出力されない/小さい

- 入力切換ボタンが正しく選ばれていないことがあります。再生機器の入力を選んでください。また、リモコンのMUTINGボタンを押していないかご確認ください。
- リスニングモードによっては、音声が出力されないスピーカーがあります。

映像が出ない/乱れる

- 入力切換ボタンが正しく選ばれていないことがあります。
- リスニングモードがPure Audioのときは、映像が映し出されません。
- 本機の電源がスタンバイ状態の場合、接続した再生機器の映像をテレビに映し出すにはHDMIスルー機能を有効にする必要があります。
- テレビの映像が乱れる場合は、本機の電源ケーブルや接続ケーブルが干渉していることがあります。テレビのアンテナ線と本機のケーブル類を離してお試しください。
- HDCP2.2対応の再生機器と接続する場合は、必ず本機のHDMI IN3端子に接続してください。その際に、テレビはHDMI OUT MAIN端子に接続してください。

HDMIコントロール機能がうまく働かない

- 本機のCECの連動機能をオンにする必要があります。また、テレビもHDMI 連動の設定が必要です。テレビの取扱説明書などをご参照ください。

リモコンで操作できない

- リモコンで本機を操作する場合は、必ずリモコンのRECEIVERボタンを押してから操作してください。

マルチゾーン機能で音が出ない

- CDプレーヤーなど、HDMI出力端子を持たない機器と接続する場合は、本機のアナログオーディオ入力端子に接続してください。光デジタルケーブルや同軸デジタルケーブルの接続ではマルチゾーン出力はできません。また、アナログ接続を行った場合、再生機器側でアナログ音声出力の設定が必要なことがあります。

ネットワークに接続できない

- 本機および無線LANルータの電源の抜き差しや電源オン状態の確認などをお試しください。改善することが多くあります。
- アクセスポイント一覧に該当のルータが表示されないときは、無線LANルータがSSIDを隠す設定になっている場合や、ANY接続がオフになっている場合があります。設定を変えてお試しください。

Bluetooth

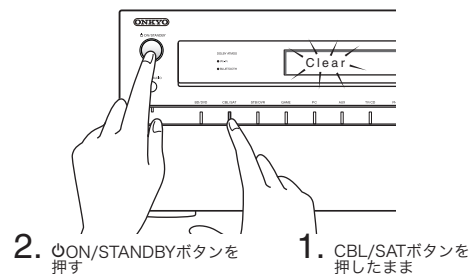
- 本機の電源抜き差しや、再生側のBluetooth対応機器の電源オン/オフなどをお試しください。そのうえで、Bluetooth対応機器のBluetooth機能が有効になっているか、または本機と接続されているかをご確認ください。

■ 初期設定に戻す

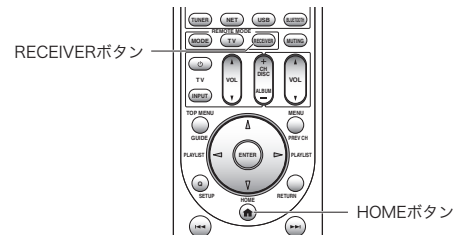
本機をリセットして、すべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。「困ったときは」の各項目をお試しになっても改善されない場合、次の手順で本機をリセットしてみてください。なお、リセットを行うとお客様の設定内容が初期設定に戻ります。リセットの前に設定内容をメモなどに記録してください。

● **リセット方法**：

1. 本体のCBL/SATボタンを押しながら（必ず押した状態で2.の操作を行ってください）

2. 本体の⏻ON/STANDBYボタンを押す（表示部に「Clear」が表示されてスタンバイ状態に戻ります）

● **リモコンのリセット方法**：

1. リモコンのRECEIVERボタンを押しながら、RECEIVERボタンが点灯するまでHOMEボタンを3秒以上押す

2. 30秒以内にRECEIVERボタンをもう一度押すとリセットされる

主な仕様

アンプ部

定格出力
150 W × 9 ch（20 Hz～20 kHz、全高調波歪率0.08%以下、6 Ω、非同時駆動、JEITA）
実用最大出力
230 W × 9 ch（1 kHz、6 Ω、非同時駆動、JEITA）
ダイナミックパワー (*)
＊IEC-60268-short-term maximum output power.
300 W（3 Ω、Front）
250 W（4 Ω、Front）
150 W（8 Ω、Front）
総合ひずみ率
0.08%（20 Hz～20 kHzハーフパワー）
ダンピングファクター
60（Front、1 kHz、8Ω）
入力感度/インピーダンス
200 mV/47 kΩ (LINE)
2.5 mV/47 kΩ (PHONO MM)
RCA定格出力電圧/インピーダンス
200 mV/470 Ω (PRE OUT)
RCA最大出力電圧/インピーダンス
4.6 V/470 Ω (PRE OUT)
XLR定格出力電圧/インピーダンス
400 mV/ 470 Ω (PRE OUT)
XLR最大出力電圧/インピーダンス
9.2 V/ 470 Ω (PRE OUT)
PHONO最大許容入力
70 mV（MM 1 kHz 0.5% Direct）
周波数特性
5 Hz～100 kHz/+1 dB、－3 dB（Direct モード）
トーンコントロール最大変化量
±10 dB、50 Hz (BASS)
±10 dB、20 kHz (TREBLE)
SN比
110 dB（LINE、IHF-A）
80 dB（PHONO MM、IHF-A）
スピーカー適応インピーダンス
4 Ω～16 Ω または 6 Ω～16 Ω

映像部

入力感度・出力電圧/インピーダンス
1.0 Vp-p/75 Ω（コンポーネントY）
0.7 Vp-p/75 Ω（コンポーネントP_B/C_B、P_R/C_R）
1.0 Vp-p/75 Ω（コンポジット）
コンポーネント映像周波数特性
5 Hz～100 MHz/+0 dB、－3 dB

AM/FMチューナー部

FM受信範囲
76.0 MHz～90.0 MHz
AM受信範囲
522 kHz～1629 kHz
プリセットチャンネル数
40

ネットワーク部

イーサネットLAN
10BASE-T/100BASE-TX
無線LAN
対応規格 IEEE 802.11 b/g/n 準拠 (Wi-Fi® 準拠)
2.4 GHz band: 1～13または14 ch（Wi-Fi® 準拠）

Bluetooth部

通信システム
Bluetoothバージョン 2.1 + EDR（Enhanced Data Rate）
最大通信範囲見通し線
約15 m (*)
周波数帯域
2.4 GHz帯域（2.4000 GHz～2.497 GHz）
変調方式
FHSS（周波数ホッピングスペクトラム拡散）
対応プロファイル
A2DP 1.2（Advanced Audio Distribution Profile）
AVRCP 1.3（Audio Video Remote Control Profile）
対応コーデック
SBC
伝送範囲（A2DP）
20 Hz – 20,000 Hz（サンプリング周波数44.1 kHz）
＊実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。

総合

電源・電圧
AC100 V・50/60 Hz
消費電力
750 W
0.09 W（待機時）
125 W（無音時）
最大外形寸法
435（幅）×199（高さ）×466.5（奥行）mm
質量
20.5 kg

• HDMI

入力
IN1 (BD/DVD)、IN2 (CBL/SAT)、IN3 (STB/DVR HDCP2.2)、IN4 (GAME)、IN5 (PC)、IN6、IN7、AUX INPUT (HDMI/MHL) (前面)
出力
OUT MAIN (ARC、HDCP2.2)、OUT SUB、OUT ZONE2
映像解像度
Pass through:4K 60 Hz (YCbCr 4:2:0)
アップスケーリング:4K 30 Hz
音声形式
Dolby Atmos、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DSD、Multichannel PCM
対応
3D、オーディオリターンチャンネル、ディープカラー、x.v.Color、リップシンク、CEC（RIHD）、4K（アップスケーリング、パススルー）

• 映像入力

コンポーネント
IN1 (BD/DVD)、IN2 (CBL/SAT)
コンポジット
IN1 (CBL/SAT)、IN2 (STB/DVR)、IN3 (GAME)、AUX INPUT (前面)
アナログRGB
PC IN

• 映像出力

コンポーネント
MONITOR OUT
コンポジット
MONITOR OUT、ZONE2 OUT

• 音声入力

デジタル
OPTICAL 1 (GAME)、2 (TV/CD)、AUX INPUT DIGITAL (前面)
COAXIAL 1 (BD/DVD)、2 (CBL/SAT)、3 (STB/DVR)
アナログ
BD/DVD、CBL/SAT、STB/DVR、GAME、PC、TV/CD、PHONO、AUX INPUT (前面)

• 音声出力

アナログ
PRE/LINE OUT ZONE2、ZONE3
バランスプリ
PRE OUT FRONT L、FRONT R
アナログマルチチャンネルプリ
FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、BACK L/R、HEIGHT 1 L/R、HEIGHT 2 or WIDE L/R、SW1 × 2、SW2 × 2
スピーカー
FRONT L/R、CENTER、SURR L/R、BACK L/R、HEIGHT1 (or Bi-AMP) L/R、HEIGHT2/WIDE L/R
ヘッドフォン
PHONES (前面、ø 6.3)

• その他

セットアップマイク	1（前面）
RS232	1
イーサネット	1
USB	1（前面）
RI	1

仕様および外観は予告なく変更することがあります。

ご相談窓口・修理窓口のご案内

販売店の「長期保証」制度にご加入の場合は：保証の手続き上、お買い上げになった販売店様での受付けが必要となります。長期保証期間内の製品は、店頭への修理品持込みをお願いいたします。

■ お電話による故障判定と、修理受付け

- 意外な操作ミスが故障と思われています。お問い合わせの前に取扱説明書をもう一度お調べください。
  また弊社ホームページサポート情報にもトラブル解決のFAQが掲載していますので、ご参考ください。

オンキヨーオーディオコールセンター
050-3161-9555
（受付時間：10:00～18:00 土・日・祝日および弊社で定める休業日を除きます）

- 製品操作のご案内、リモコン等付属パーツのご要望、その他ご不明な点についても受付けております。
- スムーズな対応のため、お問い合わせの前に以下の情報をお調べください。
  - 製品の型番
  - 接続している他機器
  - できるだけ詳しい不具合状況
  - ご購入店名
  - ご購入年月日

■ メールによる修理お申込み

http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
からお申込みいただけます。

■ お近くの修理拠点へ「持込み」をご希望の場合は

下記のURLにて全国の修理拠点のご案内がございます。
http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm

保証書について

保証書の記載事項をご確認ください。また、所定事項をご記入いただき大切に保管してください。保証期間内に万一、故障や異常が生じたときは、保証書をご用意のうえ、上記相談窓口にご相談ください。

保証期間終了後の修理について

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後、最大8年間保有しています。保有期間経過後でも故障箇所によっては、修理可能の場合がありますのでご相談ください。

切り取り線

ONKYO

音響映像機器保証書

品 番（製品名）	製造番号(SERIAL)
TX-NR1030	本体に記載

お客様	
お名前	様
ご住所	〒 -
電話番号	（ ） −

お買い上げ日
年 月 日
保証期間(お買い上げ日より)
本体 [illegible] （ただし付属品ソフトウェアは除く）
取扱販売店名・住所・電話番号

見本

●お客様へお願い：お手数ですが、ご住所、お名前、お電話番号をご記入ください。ご購入時の納品書、領収書等の添付がある場合、お買い上げ日、取扱販売店名等の記載に変えることができます。

本書は、本書の記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。保証期間中に万一故障が発生した場合は、保証書をご提示のうえ、オンキヨーオーディオコールセンター、お買い上げの販売店またはオンキヨーサービス拠点に修理をご依頼ください。

オンキヨー株式会社

- お問い合わせ先 オンキヨーオーディオコールセンター
  電話 **050-3161-9555**

無料修理規定

本保証書は保証期間中、製品のハードウェアの保証をするものです。

1. 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意にしたがったご使用で故障した場合には、無料修理をいたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合には、製品と保証書、及びご購入店、ご購入日の分かる書類をご持参ご提示のうえ、オンキヨーオーディオコールセンター(050-3161-9555)、お買い上げの販売店またはオンキヨーサービス拠点にご依頼ください。ご返送は弊社負担ですが、送られるときは送料をご負担ください。
3. ご転居、ご贈答品等で本保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理がご依頼できない場合には、オンキヨーオーディオコールセンターにご相談ください。
4. 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
   1) 使用上の誤りまたは不当な修理や改造による故障および損傷
   2) お買い上げ後の取付場所の移動、落下等による故障および損傷
   3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、ガス害（硫化ガス等）、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）、水掛かり等による故障および損傷
   4) 一般家庭用以外（例えば、業務用の使用、車両・船舶への搭載等）に使用された場合の故障および損傷
   5) 消耗品（各部ゴム、電池、キャリングケース等）の交換
   6) 保証書の提示がない場合
   7) 保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合あるいは文字を書きかえられた場合
   8) 故障の原因が本製品以外の他社製品にある場合
   9) 出張修理などを行った場合は、出張料はお客様のご負担となります。
5. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
6. 保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。
7. 故障その他による営業上の機会損失は当社では保証いたしません。

※ お客様にご記入いただいた保証書は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させて頂く場合がございますので、ご了承ください。

※ この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。**したがってこの保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません**ので保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはオンキヨーオーデイオコールセンターにお問い合わせください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理いたします。

ライセンスと商標について

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、Dolby Atmos、Dolby Surround、Surround EXおよびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTSの特許については、http://patents.dts.comをご参照ください。DTS Licensing Limitedからの実施権に基づき製造されています。DTS、DTS-HD、シンボル、およびDTSとシンボルの組み合わせはDTS社の登録商標です。また、DTS-HD Master AudioはDTS社の商標です。
©DTS, Inc. All Rights Reserved.

AACロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

Qdeo、QuietVideoはMarvell社の商標です。

Re-Equalization、Re-EQロゴはTHX社の商標です。

THX社からの実施権に基づき製造されています。"THX"および"THX(ロゴ)"は、米国およびその他の国における登録商標です。サラウンドEXは、ドルビーラボラトリーズの商標です。
米国特許番号：7,254,239、7,593,533、7,974,425、8,452,028、8,509,457
台湾特許番号：I238671 ヨーロッパ特許番号：1,360,874

THX Select2 Plus
THX Select2 Plusの認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。
このような製品にのみ付与されているTHX Select2 Plusのロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。
THX Select2 Plusの要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。またTHX Select2 Plusレシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム・シアターで再現するための特許技術である、THX技術（THXモード）を備えています。

Theater-Dimensional

"Theater-Dimensional"及び"Theater-Dimensional (ロゴ)"は、オンキヨー株式会社の商標又は登録商標です。

AccuEQ、Music Optimizer、及びWRATは、オンキヨー株式会社の商標です。

"RIHD"及び"RIHD (ロゴ)"は、オンキヨー株式会社の商標又は登録商標です。

"VLSC"及び"VLSC (ロゴ)"は、オンキヨー株式会社の商標又は登録商標です。

HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

Wi-Fi CERTIFIED®ロゴは、Wi-Fi Allianceの認定マークです。
無線LANの互換性接続を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストを合格していることを示します。

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG、Inc. が所有する登録商標であり、オンキヨー株式会社 はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

すべてのBluetooth機能対応製品とのワイヤレス通信を保証するものではありません。本機とBluetooth対応機器との互換性については、各Bluetooth対応機器に付属の取扱説明書を参照するか、または販売店にお問い合わせください。一部の国では、Bluetooth対応機器の使用が制限されている場合があります。Bluetooth対応機器の使用については、お住まいの各自治体にお問合せください。

MHL、MHLロゴおよびMobile High-Definition Linkは、MHL LLCの商標または登録商標です。

InstaPrevueおよびInstaPrevueロゴは、Silicon Image, Inc.の商標または登録商標です。

iPodおよびiPhoneは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の登録商標です。

Apple TVは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の登録商標です。

DLNA、DLNA CERTIFIEDは、Digital Living Network Allianceの商標または認定マークです。

この製品はMicrosoft社の特許に基づく許諾製品であり、その搭載技術をMicrosoft社の許可なく使用・販売することは禁じられています。

Microsoft、Windows、Windows Mediaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

Safariは、米国 Apple Computer, Inc.の商標または登録商標です。

x.v.Colorは、ソニー株式会社の商標です。

本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術とその特許に基づく許諾製品です。

その他記載された会社名、製品名などは該当する各社の商標または登録商標です。

免責事項

外部サービスのご利用にあたって
本製品は外部の音楽配信サービスまたはウェブサイト（以下「外部サービス」とします）に接続することが可能です。この利用規約は、本製品を通じて外部サービスに接続する際の利用に関する諸条件を定めるものです（以下「本規約」とします）。
また、外部サービスをご利用の場合は、本規約に同意いただいたものとみなします。

1. 定義
（1） 「当社」とは、本製品を設計、製造、販売し、または第三者に設計、製造、販売させた会社及びその関係会社をいいます。
（2） 「コンテンツ」とは、楽曲、歌詞及びその録音物や録画物（ミュージックビデオ等の映像）、楽曲名、カバーアート、アーティスト画像、その他、外部サービスにより提供される電子データファイルの総称をいいます。
2. 非保証
（1） 外部サービスの利用に関して、本製品またはお客様が使用されている通信機器、通信ソフト等の一切のサポートならびに各種プロバイダとの接続に関する苦情等は一切受付けないものとし、お客様の通信環境または外部サービスのサポート状況によって、外部サービスをご利用いただけない場合に関しましても、当社は保証致しかねます。
（2） お客様は、外部サービスのご利用にあたり、通信回線の接続状況または通信速度、お客様が使用する通信機器類の性質等の理由により、外部サービスの品質が影響を受ける可能性があることを事前に承諾するものとし、当社は予見可能性の有無を問わず、外部サービスの均一性、再現性、安定性、同質性ならびにお客様の期待される水準への合致等の品質または特定目的への適合性について、何らの保証を行うものではありません。
(3) 外部サービスにより提供されるコンテンツまたはサービスの内容及び権利の帰属について、当社は一切保証致しません。
3. 免責
外部サービスの提供の遅滞または不能、外部サービスにより提供される情報等の未到達その他外部サービスに関連して生じたいかなる損害についても、当社は理由の如何を問わず一切責任を負いません。
4. 権利義務の譲渡禁止
お客様は、当社の事前の書面による承諾によらず、本規約に基づく権利義務の全部または一部について、第三者に譲渡、移転等の処分または担保権の設定等をしてはならないものとします。
5. 規約の変更・改訂
（1） 当社は、お客様の承諾なくこの規約を変更または改訂できるものとします。
（2） 当該変更または改訂は、本製品にかかる当社所定のウェブサイト上に掲示するものとし、掲示された時点で効力を生じるものとします。
6. お問い合わせ
当社は外部サービスに関するいかなるお問い合わせもお受け致しかねます。
外部サービスに関するお問い合わせは、お客様が直接外部サービスの事業者に対して行うものとします。
7. 準拠法及び管轄裁判所
（1） 本規約は日本法に従って解釈されるものとします。
（2） 本規約に関して紛争が生じた場合は、当社の本店所在地を管轄する裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とします。

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。